



マスター教義

モルモン書教師用資料

2017年11月

マスター教義 モルモン書 教師用資料

発行：
末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

ご意見やご提案をお待ちしています。以下のあて先までお送りください。

Seminaries and Institutes of Religion Curriculum Services
50 East North Temple Street
Salt Lake City, UT 84150-0008 USA
Email: ces-manuals@ldschurch.org

あなたのお名前, 住所, ワード名とステーク名をご記入ください。

コメントを書く際は, 必ず手引きの書名をお書きください。

© 2017 *Intellectual Reserve, Inc.*

All rights reserved.

印刷：アメリカ合衆国
バージョン 3, 2017 年 10 月

英語版承認：2017 年 10 月。

翻訳承認：2017 年 10 月。

原題：*Doctrinal Mastery Book of Mormon Teacher Material*
Japanese
13232 300

目次

教師への指示.....	v
霊的な知識を得る.....	1
神会.....	15
救いの計画.....	25
イエス・キリストの贖罪.....	32
回復.....	46
預言者と啓示.....	49
神権と神権の鍵.....	52
儀式と聖約.....	55
結婚と家族.....	62
戒め.....	68
付録 — モルモン書マスター教義推奨学習進度ガイド.....	80

教師への指示

宗教教育セミナー・インスティテュートの目的には以下のようにあります：「わたしたちは生徒に、聖典と預言者の言葉に見いだされるままの福音の教義と原則を教えます。」（『福音を教え学ぶ—宗教教育セミナー・インスティテュートの教師ならびに指導者用手き』〔2012年〕, x）セミナーにおいては、おもに、1冊の聖典を初めから終わりまで書や節の自然な流れに従って、聖典を配列順に学ぶことによって、その目的が達成されます。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は次のように強調しています。「この読み方は、生ける水を飲むための最も基本となる読み方です。」（“A Reservoir of Living Water”〔ヤングアダルトのための教会教育システムファイヤサイド, 2007年2月4日〕, 3, lds.org/media-library）

イエス・キリストの教義を理解し、信じ、それに従って生活するように生徒たちを助けるもう一つの方法は、マスター教義の取り組みを行うことです。マスター教義は、生徒にイエス・キリストの福音の教義をテーマ別に研究する機会を提供することによって、聖典を配列順に学ぶことを補完するものです。

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長（1924 – 2015年）は、このような教義的な研究方法もまた効果的である理由について次のように語っています：「福音の個々の教義は、聖文の一か所ですべては説明されてはいません。あるいは、順番すなわち出来事の順に記されてもいません。あちらこちらから少しずつ集めなければなりません。広い区分の中に見られることもあります。ほとんどの場合、少しずつ幾つもの章と節に分散されています。」（「偉大な幸福の計画」, 『セミナーを教える—奉仕を始める前に』〔教会教育システム手引き, 2004年〕 68 – 69で引用）

聖典を配列順に学ぶこととマスター教義は補完的な活動であり、いずれもセミナーにおける生徒の経験の重要な要素となります。

マスター教義は、マスター聖句や基本的教義の学習などのようにこれまで宗教教育セミナー・インスティテュートで行われてきた取り組みに基礎を置き、取って代わるものです。マスター教義では、生徒が次の結果を得られるようにすることを目指しています：

1. 霊的な知識を得るために神の原則を学び、応用する。
2. イエス・キリストの福音の教義とその教義を教えている聖句に精通する。特に次の9つのテーマに関連する教義に焦点を当てていきます：
 - 神会
 - 救いの計画
 - イエス・キリストの贖罪
 - 回復
 - 預言者と啓示
 - 神権と神権の鍵
 - 儀式と聖約
 - 結婚と家族
 - 戒め

宗教教育セミナー・インスティテュートは、教師と生徒がその目標を達成できるように助けとなる教材を制作しました。そのような教材の中には、『マスター教義に関する基本文書』や『マスター教義教師用資料』が含まれています。（注：『マスター教義教師用資料』は、セミナーの4コースそれぞれに対して用意される予定です。）

マスター教義に関する基本文書

『マスター教義に関する基本文書』は生徒を対象に用意されています。その内容は、(1) マスター教義とは何か、どのように役立つか、(2) 霊的な知識を得るための原則を教える説明、(3) 上にリストアップされた教義のテーマに関するセクションです。それぞれの教義のテーマには、生徒の生活に関連する教義、彼らにとって理解し、信じ、応用することが大切な教義の説明が含まれています。

『マスター教義に関する基本文書』の中の「霊的な知識を得る」と「教義のテーマ」のセクションに含まれている教義と原則の幾つかは、マスター教義聖句によってその根拠を与えられています。一つ一つの学習コース（旧約聖書、新約聖書、モルモン書、教義と聖約と教会歴史）には、それぞれ25のマスター教義聖句があり、全部で100の聖句があります。『マスター教義に関する基本文書』の後ろに、これらの聖句のリストが掲載されています。生徒がこれらの聖句を覚えて見つけられるようになるように助けること、またこれらの聖句が救い主の教義をどのように教えているかを理解できるように助けることは、教師であるあなたの大切な役割の一つです。

マスター教義聖句は100ありますが、その一つ一つの聖句は、『マスター教義に関する基本文書』に収められている一つの教義の直接的な根拠として使われています。例えば、教義のテーマ4「回復」の中で引用されている『ジョセフ・スミス——歴史』1:15-20は、「父なる神とその御子イエス・キリストはジョセフ・スミスの祈りにこたえて御姿を現し、ジョセフを回復の預言者として召されました。」という真理の根拠として使われています。しかし、教義のテーマ1「神会」の「神会は、それぞれ独立した御三方、すなわち、永遠の御父とその御子イエス・キリストと聖霊によって構成されています。」という教義の根拠として、同じマスター教義聖句を使うこともできます。そのため、このマスター教義聖句は、そのテーマの関連聖句として掲載されています。

各マスター教義聖句がどこで引用されているかを知っていれば、その年の『マスター教義教師用資料』のどの学習経験の中でその聖句が扱われているかが理解できます。先ほどの例では、『ジョセフ・スミス——歴史』1:15-20は、『マスター教義教義と聖約および教会歴史教師用資料』の「回復」の学習経験の中で扱われるでしょう。

すべての教義のテーマが、毎年同じように強調されるというわけではありません。すべての教義のテーマは毎年扱われますが、その年のコースの聖典に含まれているマスター教義聖句が根拠となっている教義だけが、その年のマスター教義のレッスンの中で強調されることになります。

マスター教義教師用資料

マスター教義の教科課程は、その年のコースの聖典を学ぶ間に学習すべき10の学習経験から成っています。ほとんどの場合、それぞれの学習経験のために用意された教材は、1回かそれ以上のクラスを使って教える必要があるでしょう。

最初の学習経験では、霊的な知識を得ることに関連した原則を生徒が学び、応用するのを助けることに焦点が当てられます。この部分は学年度の最初の2週間のうちに教えるべきです。そうすることにより、マスター教義とは何かを生徒が理解できるように助けることができるでしょう。さらに、この学習経験の中で学ぶ原則は、引き続き年間を通して学ぶほかの9つの学習経験の大切な土台となり、何度も復習することになるでしょう。

その後の学習経験の一つ一つは、上にリストアップされた9つの教義のテーマの一つに基づいています。それらは、救い主の教義をさらに深く理解し、もっと生活に応用できるように生徒たちを助けてくれます。個々の学習経験は、「教義を理解する」「実践練習」「マスター教義の復習」という3つの主要素によって構成されています。

教義を理解する。各学習経験のこのパートには、1回かそれ以上のクラスで教えることのできる学習活動やセグメントが含まれています。これらの活動は、各教義のテーマや各テーマに関連する特定の教義に対する生徒の理解を深めるように助けるものです。

「教義を理解する」のセグメントは、通常『マスター教義に関する基本文書』の中の教義のテーマを学習することから始まります。さらに、それぞれの活動は、その年のコースの聖典に含まれているマスター教義聖句を根拠とする特定の教義に焦点が当てられています。例えば、『マスター教義モルモン書教師用引き』における「神会」という教義を学ぶ学習経験で、生徒が2 ニーファイ 26 : 33 ; 3 ニーファイ 11 : 10 - 11 ; 3 ニーファイ 12 : 48 ; 3 ニーファイ 18 : 15, 20 - 21に精通するよう助けるという指示が教師に与えられています。セミナーの生徒が「新約聖書」や「教義と聖約および教会歴史」を学ぶ年には、『マスター教義に関する基本文書』の「神会」に関する教義を説明する他の文章の根拠となっているマスター教義聖句に焦点が当てられることになります。

「教義を理解する」のセグメントの中で、生徒たちはマスター教義聖句を見つけ、印を付け、学習するよう励まされ、その聖句を使って、その聖句が根拠となっている教義を教えたり説明したりできるようになります。生徒が教義とその教義の根拠となっている聖句に精通するよう助けるために必要であれば、そのほかの学習活動を追加するとよいでしょう。

実践練習。ほとんどの学習経験には、生徒たちに少なくとも一つの実践練習が用意されています。この練習は通常、事例研究、ロールプレー、シナリオ、質問など、生徒が参加したり、小グループやクラス全体で話し合ったりできるもので構成されます。この練習は、今学んでいる教義が今日の生活の中でどのように関係があるのかを生徒が理解するために欠かせません。また、福音に従って生活するときに、また福音を教えたり、信じていることを説明したりするときに相手を怖がらせたり怒らせたりしないことができるようになるために、学んだ原則が祝福や支えとなることを強調します。

マスター教義の復習。どの学習経験にも、学年を通じて学んでいる教義やそれに関連するマスター教義聖句を生徒が復習するのを助けるアイデアを掲載したセクション

が含まれています。「マスター教義の復習」活動の目的は、生徒が「マスター教義」の中の以下の成果を収めることができるよう助けることです：マスター教義聖句において教義に関する文がどのように教えられているかを知り、これらの聖句を覚え、場所を特定することができる；関連するマスター教義聖句を使って、それぞれの教義に関する文を明確に説明する；また、学んだことを日々の選択に応用したり、教義的、社会的、歴史的な問題や疑問への自分たちの回答に応用する（『マスター教義に関する基本文書』の「マスター教義について」参照）。

「マスター教義の復習」活動に推定時間は記載されていませんが、これらの指示の最後の方にある学習進度ガイドに復習活動のための時間が割り当てられています。例えば、「霊的な知識を得る」のテーマには150分が割り当てられています。このテーマの学習経験にはおよそ80分を要するため、これに加えて、「霊的な知識を得る」に関連する原則、教義に関する文およびマスター教義聖句を復習するために70分が割り当てられています。この例では、復習に当てる時間は2、3週間まで伸ばしてもよいでしょう。

教義そのものや教義の根拠として使われているマスター教義聖句を度々復習することは、生徒が教義に精通する助けとなります。ただし、「マスター教義の復習」活動のせいで、配列順聖文教授法やマスター教義の目指す成果の影が薄くなるようなことのないように注意してください。

マスター教義を実施する

マスター教義が実施される方法は、生徒が登録しているセミナープログラムのタイプによって異なります。これらのタイプには、デイリーセミナー（早朝、リリースタイム）、オンラインセミナー、家庭学習セミナーがあります。

デイリーセミナーにおけるマスター教義

マスター教義は、クラスで行われる配列順聖文教授法に取って代わるものではありません。教師は年度を通じて、クラスの時間から毎週約30分をマスター教義に使うことが期待されています。マスター教義を実施するには、定刻どおりにクラスを始め、クラス時間を効率よく用いる必要があります。

10個あるマスター教義の学習経験の一つ一つに対して何週間使うかは、それぞれの教義のテーマの中で強調し、学ぶ教義やマスター教義聖句の数によって異なります。あるテーマは1週間で学ぶことができるでしょうし、別のテーマはもっと多くの週が必要になるでしょう（下の『モルモン書マスター教義学習進度ガイド』参照）。

マスター教義の各学習経験にある「教義を理解する」というパートは、それぞれ5–10分で終わられる幾つかの学習活動（セグメント）に分かれています。これにより、マスター教義のためにクラスの時間をどのように使うか柔軟に考えることができます。例えば、今日はクラス時間の中で一つか二つの学習活動を行うように計画するかもしれませんが、明日はクラス時間の全部を聖句ブロックを十分に教えるために使う必要があり、マスター教義を教える時間が取れないかもしれません。学習活動の中にはもっと時間が必要なものもあります。そのような場合には、フレックスデーを使うとよいでしょう（教師用手引きの付録にある「デイリークラスを教えるための学習進度ガイド」「フレックスデーに関する提案」参照）。

ある聖文ブロックに関する配列別レッスンを教えるのと同じ日にマスター教義を教える場合は、マスター教義を教えるために割く時間が、配列別に聖文を教えるために必要な時間を妨げないように注意してください。（例えば、5分間の「教義を理解する」セグメントにいつも最後の20分をかけることで、モルモン書を配列順に教えるための時間がほとんど残らないようなことがあってはなりません。）また、ある一定の時間（例えば、レッスンの最初の5分や10分）をマスター教義に取り組み、それからクラスの残り時間で、ある特定の聖文ブロック（例えば第2ニーファイ4章）を学ぶと生徒に説明するのもよいでしょう。

あなたまたはあなたの生徒が、レッスンで学ぶマスター教義の資料とある特定の聖文ブロックとのつながりに気づくことがあるかもしれませんが、『マスター教義に関する基本文書』の中の原則と教義に関する文を一つの聖文ブロックに無理に押し込めないようにしてください。そうすることで、その聖文ブロックの靈感を受けた著者の意図を生徒が理解できなくなるかもしれないからです。

マスター教義の中にある聖句をテーマ別に扱うことに加えて、生徒とともに聖典を配列順に学んでいる途中で出会ったときにもその聖句を強調する必要があります。そうすることで、生徒たちはそれぞれの聖句の背景と内容をよりよく理解することができ、それらの聖句が教えている真理の大切さをさらに深く感じるができるでしょう。

デイリーセミナーでは、マスター教義はマスター聖句に基づいており、今後はそれにとり替わります。これまでマスター聖句として認識されてきたマスター教義聖句に対して、『モルモン書セミナー教師用手引き』には、聖典を配列順に学びながら聖句を提示して適切に強調するための学習活動が提案されています。マスター教義聖句が導入されたばかりの場所では、教師用手引きにまだそれらの聖句が示されていません。聖典を配列順に教えながら、それらの聖句を効果的かつ適切に強調していくことが大切です。

『モルモン書セミナー教師用手引き』の中でマスター聖句として示されている聖句の中には、マスター教義聖句ではないものもあります。それらの聖句は、手引きで指示されているように強調されることはなくなりますが、聖典を配列順に学ぶ自然の流れの中で教えていくべきです。

教義の学習とマスター教義聖句に集中し、実践練習と復習活動を完了するためには、マスター教義に一定のクラス時間が必要となるため、クラスで暗唱活動を行う時間は恐らくないでしょう。しかし、聖句を暗唱することで生徒は祝福を受けることができるので、クラスの時間外でマスター教義聖句を暗唱してもらってもよいでしょう。

モルモン書マスター教義学習進度ガイド

モルモン書の10の学習経験の一つ一つに対して何週間使うかは、それぞれの教義のテーマの中で強調し、学ぶ鍵となる教義や聖句の数によって異なるでしょう。マスター教義のためには、次の学習活動を使って毎週30分程度を費やすべきです。

- 教義を理解する
- 実践練習
- マスター教義の復習

例えば、付属の学習進度ガイドでは、神会に関するマスター教義の学習活動のために4週間が割り当てられています。最初の1週間で、「教義を理解する」の最初の3つのセグメント、第2週目に、4番目から6番目のセグメント、第3週目に、7番目と8番目のセグメント、そして第4週目に、実践練習と「マスター教義の復習」活動を行ってもよいでしょう。

『モルモン書セミナリー教師用手引き』で翌週のレッスンを確認しながら、『マスター教義モルモン書教師用資料』に記されているマスター教義の学習活動を確認するなら、マスター教義のための時間をどのように割り当てればよいか分かるでしょう。レッスンの一部を要約して、マスター教義の学習活動や実践練習のための時間を作り出す必要があるでしょう。

次の学習進度ガイドは、教義のテーマを『マスター教義に関する基本文書』に出てくる順序で教えることを前提にして作られています。しかし、「霊的な知識を得る」の学習経験を最初に教えることさえ守られていれば、そのほかの教義のテーマはどの順序で教えても構いません。次の二つの方法について考えてください：

- 教義のテーマを『マスター教義に関する基本文書』に出てくる順序で教える（最初に「神会」を教えて、最後に「戒め」を教える）。
- 可能な限り、生徒たちが日曜の集会で学ぶ教義のテーマに合わせて教える（『わたしに従ってきなさい——青少年のための学習リソース』LDS.org参照）。

この学習進度ガイドは、マスター教義を小さなセグメントに分けて毎週複数の日を使って教えたい教師向けです。『モルモン書マスター教義』の教材を週に一度教えたい方向けには、本手引きの付録に推奨学習進度ガイドが掲載されています。

学習進度ガイド	
週	教義のテーマ（おおよその配分時間）
1	霊的な知識を得る（150分）
2	
3	
4	
5	

学習進度ガイド	
週	教義のテーマ（おおよその配分時間）
6	神会（120分）
7	
8	
9	
10	救いの計画（90分）
11	
12	
13	イエス・キリストの贖罪（180分）
14	
15	
16	
17	
18	
19	回復（30分）
20	預言者と啓示（30分）
21	神権と神権の鍵（30分）
22	儀式と聖約（90分）
23	
24	
25	結婚と家族（60分）
26	
27	戒め（180分）
28	
29	
30	
31	
32	

オンラインセミナーにおけるマスター教義

マスター教義の学習経験は、セミナーのオンラインレッスンにも取り入れられる予定です。オンラインセミナークラスを教えている場合は、前の「デイリーセミナーにおけるマスター教義」のセクションを読んで、オンラインセミナーに応用できる重要な原則や方法を理解すると役に立つでしょう。

家庭学習セミナーにおけるマスター教義

今のところ、家庭学習セミナーの教師と生徒が使える資料はマスター教義の中に含まれていません。ですから、教師と生徒は現在使われている家庭学習用教材を使い、マスター聖句の活動を継続する必要があります。家庭学習用教材が更新されるまでは、教師は生徒に『マスター教義に関する基本文書』を配付することと、自分でその資料とマスター教義聖句を学ぶように励ますことが奨励されています。

靈的な知識を得る

注：この学習経験の第1部と第2部は、40分クラス2回で教えても、組み合わせて80分クラス1回で教えても結構です。授業回数が180回に満たない場合は、『モルモン書セミナー教師用引き』の第1課「学習者の役割」の代わりに、この学習経験の第1部を教えても結構です。

第1部(40分)

靈的な真理の理解を深め、証を育む

中央扶助協会会長第二顧問を務めたシェリー・L・デュー姉妹の以下の言葉を、一人の生徒に読んでもらいます：



「あるすばらしい若い女性が……電話してきました。ひどく動揺していました。そして、泣きながらこう叫んだのです。『教会が真実だなんて、もう信じられないわ。わたしは怖い。家族が永遠に一緒にいられなくなったら、どうなるの。』」(シェリー・L・デュー, “Will You Engage in the Wrestle?” [プリガム・ヤング大学アイダホ校ディボーションナル, 2016年5月17日] byui.edu/devotionals)

デュー姉妹の話した若い女性と同じような気持ちや不安を抱いたことがあるか、またはそのような経験をしたことのある人を知っているかどうか、生徒に考えてもらいます。

- この若い女性が自分に助けを求めて来たとしたら、あなたは彼女のためにどんなことを言い、どんなことをしますか。

一人の生徒に、デュー姉妹の話の続きを声に出して読んでもらいます。

「『証が欲しいの?』と尋ねると、『はい』と言うので、

『そのために努力する覚悟はあるかしら?』と聞くと、また、『はい』と答えたのです。」(シェリー・L・デュー, “Will You Engage in the Wrestle?” byui.edu/devotionals)

- この若い女性に福音の証が欲しいか、そのために努力する覚悟はあるのかと尋ねたことが良かったと思われるのはなぜでしょうか。

セミナーでの経験を通して、生徒たちが福音の理解を深めて証を育む機会や、教会の教えや歴史など、教会に対して自分またはほかの人が抱いている疑問の答えの探し方を学ぶ機会がたくさんあることを説明します。そのような機会の一つは、マスター教義です。マスター教義では、靈的な知識を得るための原則を学んで応用する努力をしたり、イエス・キリストの福音の鍵となる教義についての理解をさらに深めたりします。

神はあらゆる真理の源である

生徒に『マスター教義に関する基本文書』を配付し、「霊的な知識を得る」のセクションを開いてもらいます。一人の生徒に、最初の段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、あらゆる真理の源についてどんなことが教えられているか見つけてもらいます。

- あらゆる真理の源はどなたですか。（次の教義に印を付けるよう生徒に勧めます：**神は万事を御存じで、あらゆる真理の源であります。**）
- この教義の根拠となるマスター教義聖句はどれでしょうか。（モーサヤ4:9に目立つような印を付けて、見つけやすくするよう生徒に勧めるとよいでしょう。）
一人の生徒に、モーサヤ4:9を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、この聖句を目で追いながら、なぜ神に頼って真理を探究するべきなのかを理解するうえでこの聖句がどう役立つか考えてもらいます。
- なぜ神に頼って真理を探究するべきなのかを理解するのに役立つのは、この聖句のどの言葉でしょうか。
- 神がすべてのことを御存じで、あらゆる真理の源であることを知るのに役立つ経験が、あなたにはありますか。それはどんな経験でしたか。（あまりに神聖な経験や個人的な経験は話さないように生徒3に言うといいでしょう。）

霊的な知識を得る方法

次の見出しをホワイトボードに書きます：霊的な知識を得る助けとなる、神から与えられた規範

- これがどんな規範かを、あなたならどう説明しますか。（「規範」という言葉の定義の一つは、何か、特に繰り返し行う事柄の正しい方法を分かりやすく示す手本だということを生徒が理解できるよう助けます。例として、何かを作るときに使う型紙を見せるとよいでしょう。）
一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションの第2段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、霊的な知識を得るために神から与えられた規範に従って行わなければならない4つの事柄を見つけてもらいます。
- 霊的な知識を得るために神から与えられた規範に従って行わなければならない4つの事柄とは何でしょうか。この段落で読んだ事柄の中から見つけてください。
ホワイトボードに書いた見出しの下に、生徒の答えを以下のように書きます：

1. 真理を知りたいという心からの望みを持つ。
2. 神が明らかにされた真理に自ら従って生活する。
3. 祈りを通して真理を求める。
4. 神の言葉を真剣に研究することを通して真理を求める。

クラスの生徒に以下の質問をします：

- 差し迫った疑問や心配事があるときだけでなく、毎日、霊的な知識を得るために神の規範を実践することは、なぜ大切だと思いますか。（この規範を毎日実践することが大切なのは、これを行えば主の御霊が常にとともにいて、聖霊の影響力を認識できるよう助けてもらえるからです。）わたしたちはこの規範に常に従うことによって、霊的な知識を常に得たいと望んでおり、差し迫った疑問や心配事があるときだけそれを望んでいるのではなことを主に示しているのです。

クラスの生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションの第2段落をもう一度参照するように言います。

- 霊的な知識を得るための神の規範の根拠となる聖句は、モルモン書のマスター教義聖句の中のどれでしょうか。（生徒が答えている間に、次の参照聖句をホワイトボードに書きます：モロナイ 10：4－5；2 ニーフアイ 32：8－9；2 ニーフアイ 32：3；第2段落に出てくる聖句の順です。）

生徒を3つのグループに分けます。ホワイトボードに書かれているマスター教義聖句を各グループに一つずつ割り当てて、霊的な知識を得るための神の規範を教えている言葉をその聖句から見つけてもらいます。十分な時間を取った後、各グループから少なくとも1人の生徒に、見つけたことを発表してもらいます。生徒たちが発表する際に、次のような質問をしてもよいでしょう：

- 「誠心誠意〔神に〕問う」とは（モロナイ 10：4）、どういう意味だと思いますか。（この言葉は、神から答えを頂くことを心から願い、頂いた答えに従って行動しようと心から思っているという意味だということを生徒が理解できるよう助けます。）

一人の生徒に、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン会長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「『誠意』とは、神から授けられる導きに従おうと心から思っているということです。」（ラッセル・M・ネルソン「求めよ、捜せ、門をたたけ」『リアホナ』2009年11月号、81）

- 心から真理を求め、神が与えてくださる導きに従おうと心から思うことは、なぜ大切なのでしょうか。
- 「常に祈〔る〕」（2 ニーフアイ 32：9）とはどんな意味だと思いますか。
- なんとなく読むのと「キリストの言葉をよく味わう」ことの違いは何だと思いますか（2 ニーフアイ 32：3）。
- 常に祈り、キリストの言葉をよく味わうという選びをすることは、霊的な知識を得るうえでどう役立つでしょうか。

霊的な知識を得るために神の規範を実践した経験を、生徒に話してもらいます。話す際に、結果としてどんな祝福を受けたのかも説明するよう勧めてください。教師が自分の経験を話してもよいでしょう。

質問して答えを求めることは、真理を学ぶための重要な取り組みの一環である

理解しにくい教会の教義や教会歴史に関する内容について質問するのは良いことだと思いませんか、生徒たちに考えてもらいます。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションの第3段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、真理を学ぼうとする際に、質問して答えを求めることがどんな役割を果たすとこの段落では教えているか、見つけてもらいます。

- 真理を学ぼうとする際に質問して答えを求めることにはどんな役割があるでしょうか。（生徒が答えた後で、真理を述べている次の言葉をホワイトボードに書きます：**質問して答えを求めることは、真理を学ぶための重要な取り組みの一環である。**）
- 質問して答えを求めることが、真理を学ぶための重要な取り組みの一環であるのは、なぜだと思いますか。
- 第3段落が教えていることによると、質問するときのわたしたちの姿勢や意図が大切なのは、なぜなのでしょう。（生徒が次の真理を理解できるように助けます：**質問して答えを求めるときのわたしたちの姿勢や意図は、聖霊を通して学ぶ能力に大きな影響を与える。**『マスター教義に関する基本文書』に書かれているこの原則に、印を付けるよう生徒に勧めるとよいでしょう。）

教会の教えが真実かどうか分からなくて不安だったためにシェリー・L・デュー姉妹に連絡してきた若い女性の話を生徒に思い出してもらいます。この若い女性が、疑問の答えを見いだせるよう自分を助けてくれる人たち、つまり、ビショップや、デュー姉妹を含むそのほかの人たちに会うことに決めたことを説明します。



この手引きに掲載されている配付資料を各生徒に配ります。この配付資料には、その若い女性が疑問の答えを探し求めてどうなったかを語るデュー姉妹の話が記載されていることを説明します。何人かの生徒に、順番にこの話を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、質問して答えを求めるときの姿勢や意図が、聖霊を通して学ぶ能力にどんな影響を与えると書いてあるか、見つけてもらいます。

生徒が最初の3段落を読んだところで、次の質問をします：

- この若い女性の真理を求める者としての姿勢や意図は、疑問の答えを見いだす彼女自身の能力にどんな影響を与えたのでしょうか。

次に、何人かの生徒に、配付資料のデュー姉妹の話の残りを、順番に声に出して読んでもらいます。



「わたしは〔その若い女性に〕言いました。『聖典と質問を全部持って来てください。疑問があるのは良いことよ。主がどう教えておられるか、見てみましょう。』

彼女は言われたとおりに聖典を持って来て、手ごわい質問を次々にしてきました。わたしたちは答えを求めて、聖文と預言者の言葉を調べました。疑問があるからといって自分に証がないというわけではないことが、彼女には少しずつ分かってきました。聖文には、疑問を持つ預言者がたくさん出てくるのです。そして彼女は、御霊が自分に証しているとき、それに気づくことができるようになりました。預言者、聖見者、啓示者が真の預言者であると御霊が証していることにも気づきました。

彼女の証は育ち始め、時がたちました。そして一年ほど前、彼女がまた電話してきたのです。『わたしはこの手に神殿推薦状を持っているんです。あなたは、わたしがこのことを最初に知らせたいと思った人の一人です。わたしが自身のエンダウメントを受けるときに来てくださいますか。』そして、こう言ったのです。『あなたが言ってくださった言葉でいちばん助けになったのは何だか分かりますか。疑問があるのは良いことだという言葉です。そう言われたおかげでわたしは、自分は疑い深いのではなく真理を探究しているのだと考えることができるようになりました。』

わたしは喜びに満たされました。しかし、その二日後、これとはうって変わった電話を別の〔若い女性から〕受けたのです。『デュー姉妹、わたしは妊娠しています。このことがほかの人の口からあなたの耳に入る前に、わたしはあなたに伝えておきたいのです。』彼女は何年もの間、福音が真実だとは思えず、ついに、純潔の律法を守る理由なんてないという結論を出したそうです。

わたしは彼女を裁かないし、彼女を愛していると言いました。そのうえで、証を得たいと思うかどうか尋ねたのです。『いいえ、得たいとは思いません』と彼女は言いました。

驚くほど対照的でした。ほぼ同じ時期に、この二人の若い女性は疑問を抱き、証が危うくなりました。一人は助けを叫び求め、家族や友達、指導者が、モンソン大管長の勧告に従って彼女を助けに行きました。もう一人の少女は疑問を抱きつつ、不道德な選択を容認してもよいと自分に言い聞かせたのです。……

一方の少女は疑問を持つことによって真理を探し求めるようになり、もう一人の少女は、疑問があることを口実に、不道德な行為を正当化しました。

愛する友人の皆さん、疑問があるのは良いことです。靈感を受けて疑問を抱き、信仰をもって質問し、信頼できる情報を与えてくれる人に問いかけ、御霊が答えへと導き、確認してくれるのであれば、疑問があるのは良いことなのです。……

努力せずに啓示を受けられるようになる人などいません。神からの答えは、魔法のように突然現れたりもしないのです。霊的に成長したいのであれば、主は、質問して答えを求めるよう望んでおられます。こう約束しておられるのです。『あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受け……るであろう。』〔教義と聖約 42:61〕これ以上明らかなことがあるでしょうか。靈感を受けた質問を信仰をもって尋ねられることを、主は愛しておられます。そのような質問は知識と啓示、さらに大いなる信仰へと導いてくれるからです。(シェリー・L・デュー, “Will You Engage in the Wrestle?” [ブリガム・ヤング大学アイダホ校ディボーションナル, 2016年5月17日] byui.edu/devotionals)

- デュー姉妹が話した二人の若い女性の経験のどんな点から、質問するときの姿勢や意図が大切であることが分かるでしょうか。
- この二人の若い女性の経験は、疑問を抱いたらその答えを熱心に探し求める役割がわたしたちにはある、ということを理解するのにどう役立つでしょうか。

心から疑問に思っていることを問いかけ、その答えを熱心に探し求めることの大切さについて、教師が証を述べてもよいでしょう。心から疑問に思っている質問の答えを主が与えてくださると、自分で分かるようになった経緯を、生徒たちに分かち合うとよいでしょう。

学んだことに基づき、天の御父の定められた、霊的な知識を得るための規範に従って、心から疑問に思っている事柄を質問し、その答えを熱心に探し求めるよう生徒に勧めます。

第2部(40分)

疑問の答えを見いだすための原則

人生や、教会とその教えや歴史についてどんな疑問を抱いたことがあるか、生徒に考えてもらいます。

一部の生徒が抱いている不安や疑問、ほかの人から聞かれるかもしれない不安な事柄や疑問の例として、以下をホワイトボードに掲示するか、書きます。

ほかの人たちが祈りの答えを受けた話は聞きますが、そんなことはわたしには起こりません。正しいことをしようと努力しているのに、まるでわたしは神から愛されていないみたいです。神はどうしてわたしの祈りにはこたえてくださらないのでしょうか。

霊的な知識を得る学習経験のこの部分の目的は、疑問を抱いたりほかの人から疑問を投げかけられたりしたときに指針となる以下の3つの原則を学んでもらうことだと生徒に説明します：信仰をもって行動する、永遠の視点から概念や疑問について調べる、神が定められた情報源を通してさらに理解を深める。

信仰をもって行動する

数人の生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションにある原則1「信仰をもって行動する」を順番に声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、疑問や不安があるときに信仰をもって行動するためにできる事柄を述べている言葉を見つけてもらいます。自分にとって特に大切な言葉に印を付けるように生徒に勧めるとよいでしょう。

見つけたことを発表してもらいます。発表する際に、見つけた勧告に従うと、疑問や不安があるときにどう役立つか説明してもらおうとよいでしょう。次の原則に注目してもらいます：**答えを見いだそうと努力し続ける際には、求めている答えを最終的には受けると信じる信仰を持たなければならない。**

- この教義の根拠となるモルモン書のマスター教義聖句はどれでしょうか。
(自分の聖典でエテル12:6に目立つような印を付けて簡単に見つけられるようにしたらどうかと生徒に勧めるとよいでしょう。)

一人の生徒に、エテル12:6を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、疑問の答えを探し求める際に信仰を持つことが大切なのはなぜかを理解するのに役立つ言葉を見つけてもらいます。

- 疑問の答えを探し求める際に信仰を持つことが大切なのはなぜかを理解するのに役立つのは、この聖句のどの言葉でしょうか。
- 「信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである」とはどんな意味だと思えますか(エテル12:6)。

一人の生徒に、ディーター・F・ウークトドルフ管長が語った次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、福音が真実であるという証を受けるためにどんなことができるかと言っているかを聞き取ってもらいます。



「福音の原則をどんな状況であろうと、どこでもいつでも実践しながら信仰を行使するとき、福音の甘い実を味わうでしょう。そしてその実によってそれが真実であることを知るでしょう（ディーター・F・ウークトドルフ「水に映る影」〔ヤングアダルト対象の教会教育システムファイヤサイド, 2009年11月1日〕LDS.org）」

- ウークトドルフ管長のこの言葉によると、福音が真実であるという証を受けたりその証を強くしたりするために、わたしたちにはどんなことができるでしょうか。
- 福音が真実であるという証を受ける前に信仰を働かせるよう主が望んでおられるのは、なぜだと思いますか。
- 福音の原則を毎日実践して信仰を働かせることにより、あなたはどんな真理の証を受けてきましたか。どのような経緯でその証が得られたのですか。（教師が自分の経験を話してもよいでしょう。）

主の戒めに従って生活し、信仰を働かせようと努力しているにもかかわらず、自分に証があるのか疑問に思ったり、自分の証がなぜ強くならないのか分からないと感じたりする人もいます。これを説明します。

『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションの原則1「信仰をもって行動する」の最後の二つの文章に注目してもらいます：**わたしたちがすでに受けている真理と光に忠実であれば、さらに受けるでしょう。わたしたちの疑問や祈りの答えは、しばしば「教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」与えられます。**この真理に印を付けるよう生徒に勧めます。

- この真理は、福音に対する自分の証がもっと早く成長していない理由を理解するのにどう役立つでしょうか。
- この二つの真理の根拠となるマスター教義聖句はどれでしょうか。（2ニーファイ28：30に目立つような印を付けたらどうかと生徒に勧めるとよいでしょう。）

一人の生徒に、2ニーファイ28：30を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、『マスター教義に関する基本文書』にある真理の根拠となる言葉を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老が、家族とともに、数年間にわたって試練に見舞われたときに祈りについて経験したことを話していると説明します。一人の生徒に、クリストファーソン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、主が質問や祈りにすぐに答えてくださらなかったり、わたしたちの望む方法で答えてくださらなかったりすることがある理由を聞き取るように言います。



「奇跡的な助けによって問題から解放されるように祈りました。そのように誠心誠意、熱心に繰り返し祈りましたが、最終的な返事は『いいえ』でした。結局、わたしは救い主のように『わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください』と祈ることを学びました（ルカ 22：42）。わたしは主の助けを求めながら、最終的な解決までの小さな一步一步を進んで行ったのです。

……天の御父の前にひれ伏し、涙ながらに助けを懇願したことが何度もありました。すると御父はほんとうに助けてくださいました。ただ平安な気持ち、必ず何とかするという確信だけを感じるときもありました。……

当時は苦しい思いをしましたが、今振り返ると、問題が即座に解決されなかったことに感謝しています。何年もの間、ほとんど毎日神に助けを求めざるを得なかったため、どのように祈り、答えを受けるべきかを確かに学び、神を信じることを非常に実践的な方法で学びました。ある点で救い主と天の御父を非常によく知るようになりました。そうでなければ知ることができなかったかもしれませんし、もっと長い時間がかかったかもしれません。……心の底から主を信頼するようになりました。毎日毎日主とともに歩むことを学んだのです。」（D・トッド・クリストファーソン「日々の祝福に神の手を認める」『リアホナ』2012年1月号、26－27）

- 主が質問や祈りにすぐにこたえてくださらなかったり、わたしたちの望む方法でお答えにならない場合がある理由は何でしょうか。このセグメントで学んだ事柄を基に考えてください。（生徒が答えてから、神は祈りに、非常に直接的で力強い方法ですぐにこたえてくださることもあることを指摘するとよいでしょう。）

ホワイトボードに書かれた不安や疑問に注目してもらいます。

- こんな不安や疑問があったとしたら、あなたは信仰をもってどう行動しますか。

永遠の視点から概念や疑問について調べる

自分が宗教的に信じていることや自分の宗教的な見方が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でない友達や知人とは違うことに気づいたときのことを、生徒に考えてもらいます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、末日聖徒が人生に関する疑問や宗教的な事柄について、ほかの人とは違う見方をしているのはなぜだと言っているかを聞き取るように言います。



「多くの重要なテーマ〔または信条〕に関して、わたしたちの前提……は、友人や同僚の多くとは異なります。また、わたしたちの前提は、最近のメディアが扱って立つ多くの前提とも異なっています。……一例として、末日聖徒は、神が御自分の子供たちのために立てられた計画を知っているため、この現世は、知ることのできない過去と不確かな未来の間に挟まれた一幕劇ではないことを知っています。現世は、3幕ある劇の第2幕のようなものなのです。霊の存在である第1幕と、永遠の行く末である第3幕について明らかにされているので、第2幕の目的は決まっています。わたしたちは、神が明らかにされたこの計画とそのほかの真理を知っているため、これを知らない人々とは異なる前提から出発しているのです。その結果、ほかの人たちが現世に関する自分の考え方だけで判断する多くの大切なテーマについて、わたしたちは異なる結論に達することになります。」（ダリン・H・オークス「人、その心に思うがごとく」〔教会教育システム中央幹部との夕べ、2013年2月8日〕lds.org/broadcasts）

- オークス長老によると、地上での生活や宗教的なテーマについて末日聖徒がほかの人たちと異なる見方をしているのはなぜですか。（生徒が答えている間に、ホワイトボードに以下の図を書きます。）

第1幕
前世

第2幕
地上での
生活

第3幕
死後の生活

第1幕と第3幕に覆いをかけて見えなくしてから、次の質問をします。

- 前世と死後の世界について知らないと言った物の見方が変わってくるという重大な問題の例としては、どんなものが挙げられますか。（生徒は、人生に対する価値観や、自分の選んだことの結果を最後の裁きで神から受けることなど、様々な内容を発表するでしょう。）

一人の生徒に、オークス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。オークス長老はセミナーとインスティテュートの教師を対象に話していることを説明します。ほかの生徒には、難しい概念や問題が突き付けられた場合に、自分たち生徒はどうすべきだと言っているかを聞き取るように言います。



「教会の若者は同僚と論争することはなるべく避けたほうがいいでしょう。……より良い対処法は、自分が直面するこの世的な主張を支えている前提は何かを見極め、さらには、末日聖徒の考え方の指針となっている異なる前提は何かを見極めることです。」（ダリン・H・オークス「人、その心に思うがごとく」lds.org/broadcasts）

- 難しい概念や疑問が突き付けられた場合に、どんなことができるでしょうか。オークス長老の勧告に基づいて考えてください。（教師は、前提とは結論の根拠となる考えであり、主張とはある人の立場や物の見方、意見だということを生徒が理解できるよう助ける必要があるかもしれません。）

信条や前提が、その人のたどりつく答えに影響を与えることがあることを説明するために、ホワイトボードに書いた不安や疑問の周りに簡単な枠を貼り付けるか、描きます。

この簡単な枠は、この疑問を投げかけている人が末日聖徒の持っている天の御父やその救いの計画の知識、イエス・キリストの教えに照らしてその疑問について考えていない場合に、その人の心の中にある信条または前提だと説明します。だれかの信条や前提について考える際には、優しさと敬意を持ち、その人の感情に気を配り、聖霊の導きによく従うようにするべきであることを指摘します。

ほかの人たちが祈りの答えを受けた話は聞きますが、そんなこと、わたしには起こりません。正しいことをしようと努力しているのに、まるでわたしは神から愛されていないみたいです。神はどうしてわたしの祈りにはこたえてくださらないのでしょうか。

- このような不安や疑問が湧き上がる原因になりかねない間違った信条や前提には、どんなものがあるでしょうか。

生徒の答えを、ホワイトボードの枠の周りに書きます。以下のような答えが出るのではないのでしょうか：

神は、すべての人の質問に、同じように答えてくださる。

神は御自分の子供たちを愛されているが、わたしのことはほんとうは愛しておられない。

神は、わたしが望み、期待するような方法で祈りにこたえてくれないならば、わたしのことを愛しておられない。

わたしが正しいことをしようと努力しているのであれば、神はわたしのあらゆる祈りに直ちに答えてくださるはずだ。

- 末日聖徒またはそうでない人たちが神や地上での生活、教会とその教えまたは歴史について疑問を投げかけている場合、その人が持つ信条や前提について考えることが大切です。これはなぜだと思いますか。（このようにすると、疑問の根底にある悩みや限られた視点があることが理解できるようになる場合があることを生徒が理解できるよう助けます。）
- ホワイトボードに書いた信条や前提から、この人が限られた視点から疑問を見ていることが分かるかもしれません。それはなぜでしょうか。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションにある原則2「永遠の視点から概念や疑問について調べる」を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、どうすれば概念や疑問について永遠の視点から調べることができるか、書いてあるか、探してもらいます。

生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。次の真理に印を付けるよう生徒に勧めます：**教義的な概念や疑問、社会問題について永遠の視点から調べるには、わたしたちはそれらを、救いの計画や救い主の教えに照らして検討します。**

第1幕と第3幕にかけておいた覆いを外します。

 救いの計画や救い主の教えに照らして概念や疑問をどう検討するのかを生徒が理解できるよう助けるために、ビデオ「永遠の視点から疑問について調べる」(2:55)を見せてもよいでしょう。このビデオは、LDS.orgで見ることができます。ローレンという名前の若い女性が、友達が神に疑問を抱くようになった原因と思われる信条や前提について時間を取って考え、その疑問について永遠の視点から調べた点に注意しながら見るよう、生徒に言います。

ビデオを見たら、以下の質問をします。

- 神に対して疑問を抱かせるような影響を友達に与えた信条や前提について考えたことが、ローレンの役に立ったのはなぜだと思いますか。
- ローレンが友達の疑問を永遠の視点から調べたところ、どうなりましたか。

不安や疑問を永遠の視点から調べる練習を生徒が行えるよう、ホワイトボードの枠の中に書かれている不安や疑問を指して、次の質問をします。

- 天の御父とその計画、救い主の教えについて末日聖徒が知っていることの中で、この疑問を異なった視点から見て永遠の真理に基づいて答えを見いだせるようにしてくれるのは、どんな事柄でしょうか。

生徒が答えている間に枠の周りの言葉を消して、生徒の言った答えを書きます。以下のような答えが出るのではないのでしょうか：

神は、だれに何が必要で何が最良か御存じなので、それに基づいて、一人一人の祈りに異なる答えを与えられることがある。

神はわたしを含め、御自身のすべての子供たちを愛しておられる。

神は、わたしが望み、期待するような方法で祈りにこたえてくれないときでも、わたしのことを愛しておられる。

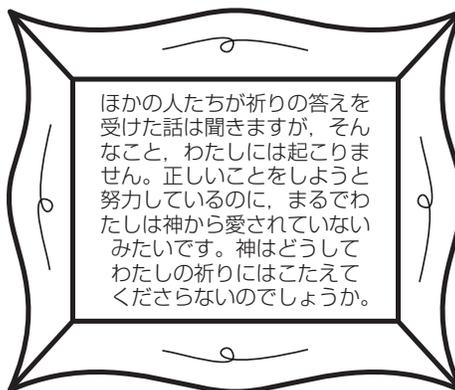
神は、わたしが正しいことをしようと努力していても、わたしのあらゆる祈りに直ちに答えてくださるとはかぎらない。それによって、霊的に成長する機会が与えられる。

ホワイトボードに書かれた心配と疑問の周りにある枠を取り去るかまたは消して、代わりにもっときれいな枠を付けます。

この新しい枠は、天の御父とその計画、救い主の教えについてわたしたちが知っている知識を表していることを説明します。

- この疑問を、天の御父とその計画、救い主の教えについて末日聖徒が知っている事柄に照らして見ると、疑問に対して異なった見方ができるようになります。どんな見方ができるようになるでしょうか。

永遠の視点から考えたときに、概念や教え、不安な点がよく理解できるようになったという経験を、生徒に話してもらいます。教師が自分の経験を話してもよいでしょう。



神が定められた情報源を通してさらに理解を深める

教会に疑問を感じたときや重大な決断を下すのに助けが欲しいときにより所となる情報源は何か、生徒に考えてもらいます。

一人の生徒に、十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます：



「ヤコブは、『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、グーグルで調べるがよい』とは言いませんでした。」(M・ラッセル・バラード「21世紀においてCES教師に与えられている機会と責任」〔中央幹部との夕べ、2016年2月26日〕lds.org/broadcasts)

- ヤコブ 1:5で、使徒ヤコブは、何と教えていますか。
(「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は……神に、願いを求めるがよい。」)
- 疑問や不安のあるときにまず神に頼って助けを求めるのが大切なのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションにある原則3「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」の第1段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、わたしたちが真理を見いだして理解できるよう神はどんなものを与えてくださっていると書いてあるか、見つけてもらいます。見つけたものに印を付けるよう生徒に勧めます。

- わたしたちが真理を見いだして理解できるよう、神はどんなものを与えてくださっているでしょうか。(この話し合いの中で、次の言葉に印を付けるよう生徒に勧めるとよいでしょう：**霊的な知識を得る主の定められた過程の一部として、主は真理と導きを神の子らに明らかにするための情報源を確立されています。**)
- 主が定められた真理の源に頼るときに、わたしたちはどのような祝福を得ることができるでしょうか。

ホワイトボードの枠の中に書かれている不安と疑問に注目してもらいます。

- このような不安や疑問が湧いてきたときに頼れる、神が定められた情報源にはどんなものがあるでしょうか。

神が定められた情報源を探すのに役立つ手段を知ってもらうため、教会の公式ウェブサイトについて生徒たちに教えるのもよいでしょう(また、可能であれば、そのサイトを見せたり、生徒の電子機器でサイトを開いてもらいます) mormonnewsroom.org。教会はこのウェブサイトで、一般の人々が関心を寄せている教会関係の様々な情報を提供したり、メディアを通して流される偏った情報や誤った情報を訂正していることを説明します。また、「福音のテーマ」のページ lds.org/topics を生徒たちに見せてもよいでしょう。「福音のテーマ」の論文には、歴史的、教義的に難しい問題に関して率直に書かれた貴重な情報が数多く含まれています。

生徒たちに、疑問や問題におつかったときに、答えを得るために神が定められた情報源に頼ることによって祝福を受けた経験を紹介してもらいます。教師自身の例を紹介する準備をしておくともよいでしょう。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションにある原則3「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」の第2段落

を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、文を目で追いながら、この段落では教会が作成したのではない情報源についてどんなことを教えているか、探してもらいます。

- 信頼できない情報源を警戒することが大切なのはなぜでしょうか。
- どうすれば、教会が作成したのではない情報源から真理を見いだすことができるでしょうか。（わたしたちが調べる情報源が何であろうと、それが真実か誤りかは聖霊が教えてください。生徒がこれを理解できるよう助けてください〔モロナイ 10：5参照〕。）

セミナーの一年を通して、彼らはモルモン書の教えをカリキュラムに沿って学ぶだけでなく、『マスター教義に関する基本文書』の9つの教義のテーマ（このテーマは日曜学校の青少年教科課程のテーマと一致しています）を学びます。また、各テーマに関連したマスター教義聖句も学びます。各テーマを学びながら、生徒たちは、現実抱えている疑問や問題について考え、自分で実践する機会がどこにあるかを考える際に、このレッスンで話し合った霊的な知識を得るための原則を活用します。

難しい概念や疑問にぶつかったときには霊的な知識を得るための原則を応用することが大切であるという自分自身の証を教師が分かち合うとよいでしょう。主が御自分の御霊を通して生徒たちに教えたいと望んでおられるということを、生徒に約束します。信仰をもって行動し、永遠の視点から概念や疑問を調べ、神が定められた情報源を通してさらに理解を深めるならば、神は答えを与え、わたしたちの人生に導きを与えてくださいます。

マスター教義の復習

別のクラスの時間に、次の活動を行って、霊的な知識を得ることに関するこの学習経験の第1部と第2部で採り上げられているモルモン書のマスター教義聖句を生徒が復習できるようにしてもよいでしょう。

クラスが始まる前に、以下のマスター教義聖句の場所をホワイトボードに書いておきます：2 ニーファイ 28：30；2 ニーファイ 32：3；2 ニーファイ 32：8－9；モーサヤ 4：9；エテル 12：6；モロナイ 10：4－5。

生徒を二人一組に分けます。ホワイトボードに書かれた聖句で教えられている教義を生徒たちに復習してもらいます。各組の二人のうち一人が『マスター教義参照ガイド』を見て、順不同に各マスター教義聖句の要点を読み上げます。要点が読み上げられたら、もう一人の生徒は、それがホワイトボードのどの聖句の要点かを言います。数分経ったら、各組で役割を入れ替えて同じことをしてもらいます。

次に、生徒にマスター教義聖句の文に慣れてもらうために、聖句の場所を言わずに聖句を読み上げます。生徒たちが聖句の場所を見つけ、教師が聖句を最後まで読み終わる前に一緒にその聖句を読めるかどうか試してもらいます。聖句を読んだら、その聖句で教えられている教義または原則を、何人かの生徒に言ってもらいます。ホワイトボードに書かれたすべてのマスター教義聖句について、これを繰り返します。

証が欲しいですか



「わたしは〔その若い女性に〕言いました。『聖典と質問を全部持って来てください。疑問があるのは良いことよ。主がどう教えておられるか、見てみましょう。』

彼女は言われたとおりに聖典を持って来て、手ごわい質問を次々にしてきました。わたしたちは答えを求めて、聖文と預言者の言葉を調べました。疑問があるからといって自分に証がないというわけではないことが、彼女には少しずつ分かってきました。聖文には、疑問を持つ預言者がたくさん出てくるのです。そして彼女は、御霊が自分に証しているとき、それに気づくことができるようになりました。預言者、聖見者、啓示者が真の預言者であると御霊が証していることにも気づきました。

彼女の証は育ち始め、時がたちました。そして一年ほど前、彼女がまた電話してきたのです。『わたしはこの手に神殿推薦状を持っているんです。あなたは、わたしがこのことを最初に知らせたいと思った人の一人です。わたしが自身のエンダウメントを受けるときに来てくださいますか。』そして、こう言ったのです。『あなたが言ってくださった言葉でいちばん助けになったのは何だか分かりますか。疑問があるのは良いことだという言葉です。そう言われたおかげでわたしは、自分は疑い深いのではなく真理を探究しているのだと考えることができるようになりました。』

わたしは喜びに満たされました。しかし、その二日後、これとは違って変わった電話を別の〔若い女性から〕受けたのです。『デュー姉妹、わたしは妊娠しています。このことがほかの人の口からあなたの耳に入る前に、わたしはあなたに伝えておきたいのです。』彼女は何年もの間、福音が真実だとは思えず、ついに、純潔の律法を守る理由なんてないという結論を出したそうです。

わたしは彼女を裁かないし、彼女を愛していると言いました。そのうえで、証を得たいと思うかどうか尋ねたのです。『いいえ、得たいとは思いません』と彼女は言いました。

驚くほど対照的でした。ほぼ同じ時期に、この二人の若い女性は疑問を抱き、証が危うくなりました。一人は助けを叫び求め、家族や友達、指導者が、モンソン大管長の勧告に従って彼女を助けに行きました。もう一人の少女は疑問を抱きつつ、不道德な選択を容認してもよいと自分に言い聞かせたのです。……

一方の少女は疑問を持つことによって真理を探し求めるようになり、もう一人の少女は、疑問があることを口実に、不道德な行為を正当化しました。

愛する友人の皆さん、疑問があるのは良いことです。靈感を受けて疑問を抱き、信仰をもって質問し、信頼できる情報を与えてくれる人に問いかけ、御霊が答えへと導き、確認してくれるのであれば、疑問があるのは良いことなのです。……

努力せずに啓示を受けられるようになる人などいません。神からの答えは、魔法のように突然現れたりはないのです。霊的に成長したいのであれば、主は、質問して答えを求めよう望んでおられます。こう約束しておられるのです。『あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受け……るであろう。』〔教義と聖約 42：61〕これ以上明らかなことがあるでしょうか。靈感を受けた質問を信仰をもって尋ねられることを、主は愛しておられます。そのような質問は知識と啓示、さらに大いなる信仰へと導いてくれるからです。〕(シェリー・L・デュー, "Will You Engage in the Wrestle?" [ブリガム・ヤング大学アイダホ校ディボーションナル, 2016年5月17日] byui.edu/devotionals)



神会

注：次のマスター教義の活動は、数回のレッスンを通じて行うことも、一回のレッスンで行うこともできます。

教義を理解する（75分）

セグメント1（10分）

ホワイトボードに次の言葉を書き、生徒の一人に声に出して読んでもらいます：神はわたしのことなど御存じないし、わたしの経験していることにも関心を持っておられません。

- このような誤解があると、神を信じる信仰を働かせるのが難しくなるのはなぜでしょうか。

生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ1、「神会」を開いてもらいます。生徒たちに、二人一組になって、このテーマの下にある文章と一緒に読んでもらい、神会の御三方の性質や特質に関する真理を見つけてもらいます。次に、見つけた真理を使って、ホワイトボードに書かれた言葉をどのように訂正したり明確にしたりすることができるかを話し合ってもらいます。

十分に時間を取ってから、数人の生徒に、それぞれのパートナーと話し合ったことをクラス全体に説明してもらいます。神会の教義を学び、さらに深く理解することで、天の御父とイエス・キリスト、聖霊を信じる信仰と信頼が深まることを証します。

セグメント2（10分）

生徒に次の質問をします：

- 相手が自分より劣っていると判断してしまう原因となるような、ほかの人との違いにはどのようなものがありますか。（生徒たちから経済状況や外見、能力、文化、言語、宗教、性別、人種の違いといった意見が出るでしょう。）

生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ1、「神会」を開いてもらい、「父なる神」の下の段落に目を通して、神が御自分の子供たちに対してどのような気持ちを抱いておられるか、それを説明している真理を見つけてもらいます。生徒たちに見つけたことを発表してもらい、次の教義をホワイトボードに書きます：**神はその子ら一人一人を完全に愛しておられ、すべての人は神にとって等しい存在です。**生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の冊子にあるこの文章に印を付けるよう勧めます。

- この真理の根拠となるマスター教義聖句はどれですか。（2 ニーフアイ 26：33の聖句に、後で見つけやすいように、特別な印を付けるよう勧めます。）

生徒たちがこの聖句の背景を理解するのを助けるために、2 ニーフアイ 26 章で預言者ニーフアイが終わりの日について預言し、イエス・キリストのもとへ来るようすべての人を招いていることを説明します。

一人の生徒に、2 ニーフアイ 26：33を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒たちには、聞きながら、ホワイトボードにある教義の根拠となっている語句を見つけてもらいます。生徒たちに、見つけたことを発表してもらいます。

- 「すべての人は神にとって等しい存在です」とはどのような意味だと思いますか。
- 神がその子供たち一人一人を完全に愛しておられ、すべての人は神の目に等しい存在であることを知る助けとなったとすれば、それはどのような経験でしたか。(あなた自身の経験を話してもよいでしょう。)
- この真理を理解することで、ほかの人々に対する見方や接し方にどのような影響があるでしょうか。

この真理を応用する方法について生徒の理解を深めるために、一人の生徒に、次の言葉を読んでもらいます：

「教会は、教会の内外を問わず、いかなる形であれ、過去一切の差別を含むあらゆる人種差別を明白に非難しています。2006年、当時教会の管長であったゴードン・B・ヒンクレーは次のように述べています。『異なる民族や人種を見下すような話をする人は、キリストのまことの弟子とは言えません。そのような人はキリストの教会の教えに従っていると言うこともできません。わたしたち一人一人が天の御父の息子娘であり、御父は御自身のすべての子供たちを愛しておられることを心に留めましょう。』」 (“Race and the Church: All Are Alike unto God,” Feb. 29, 2012, mormon-newsroom.org)

セグメント 3 (10分)

「ニーファイ人に御姿を現されたイエス・キリスト」(lds.org/media-library) と「西半球で教えられるイエス」(『福音の視覚資料集』82番。lds.org/media-libraryも参照) の絵を見せます。

この2枚の絵に描かれている聖文中の出来事を短く要約してもらいます。

3 ニーファイ 11:10 – 11がマスター教義聖句であり、救い主がニーファイ人に御姿を現されたときに、最初に語られた言葉がここに記されていることを生徒たちに伝えます。この聖句に目立つ印を付けるよう勧めます。

一人の生徒に、3 ニーファイ 11:10 – 11を読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、次に主が御自分についてニーファイ人にどのような真理を教えられたかを見つけてもらいます。



- 「あの苦い杯から飲み」(3 ニーフアイ 11:11) という言葉は何を指しているでしょうか。(主が贖いの犠牲のときに耐えられた苦しみ。)
- これらの節は、天の御父とその御子イエス・キリストの関係について何を教えていますか。
- これらの節から、救い主についてどのような真理を学ぶことができますか。(生徒たちが答えた後、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ1, 「神会」に含まれている次の教義をホワイトボードに書きます：**イエス・キリストはあらゆることについて御父の御心を行われます。イエスは罪のない人生を送り、全人類の罪を贖ってくださいました。**生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の冊子にあるこの教義に印を付け、聖典の3 ニーフアイ 11:10 - 11の隣に、一つ目の文章を書くよう勧めます。)

これらの教義に対する生徒たちの理解を深めるため、クラスの半分にルカ 22:39 - 44を黙読してもらい、もう半分にモーセ 4:1 - 2を黙読してもらいます。イエス・キリストがどのようにして、あらゆることについて御父の御心に従われたか、その例を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- 救い主の模範から、わたしたち自身と天の御父の関係を強める方法について何を学ぶことができますか。

セグメント 4 (10分)

まだ行っていない場合、ホワイトボードに次の教義を書きます：

神はその子供たち一人一人を完全に愛しておられ、すべての人は神にとって等しい存在です。

イエス・キリストはあらゆることについて御父の御心を行われます。イエスは罪のない人生を送り、全人類の罪を贖ってくださいました。

生徒たちに、これらの教義の根拠となるマスター教義聖句をモルモン書から見つけてもらいます。(生徒たちがこれらの聖句を思い出すのに苦労しているようなら、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ1, 「神会」の中の「父なる神」と「イエス・キリスト」のセクションの文章に目を通すよう勧めます。) 生徒たちが2 ニーフアイ 26:33と3 ニーフアイ 11:10 - 11を見つけた後、二人の生徒にこれらの聖句を声に出して読んでもらいます。

ホワイトボードに次の質問を書きます：イエス・キリストの贖いの犠牲は、神がその子供たち一人一人を完全に愛しておられることと、すべての人は神にとって等しい存在であることをどのように示していますか。

クラスノートか学習帳に、次の質問への答えを書いてもらいます。時間を十分に取ってから、何人かの生徒に答えをクラスで発表してもらいます。

セグメント 5 (5分)

生徒たちに、良い模範だと思われる人物について考えてもらい、その人がどうして良い模範なのか、その理由について考えてもらいます。

生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ1、「神会」の中の「イエス・キリスト」のセクションの第二段落に目を通してもらいます。どんな人でもその生涯を模範とすることのできる人物がありますが、その人物について教えている文章を見つけてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。次に、ホワイトボードに次の教義を書きます：**イエスは、わたしたちがどのような生活を送るべきか、その完全な模範を示されました。**

- この教義の根拠となる聖句はどれですか。（3 ニーフアイ 12：48）

生徒たちが3 ニーフアイ 12：48の背景を理解するのを助けるため、イエス・キリストがニーフアイ人に御姿を現された後、主が御自分のもとへ来る方法と、天の王国に入るために必要なことについて教えられたことを説明します。

一人の生徒に、3 ニーフアイ 12：48を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、救い主が人々にお与えになった戒めを見つけてもらいます。

- 人々に対して救い主はどんな戒めをお与えになりましたか。
- 完全な者になるというこの戒めに従うよう努力するためには、どのような方法があるでしょうか。（天の御父とイエス・キリストのように完全になる方法とは、御二方のようになることであると指摘します。救い主に従うよう努めるとき、わたしたちは主と主の贖いの犠牲を通して完全になることができます。完成に至るための過程は来世まで続くものです。）

生徒たちに、マスター教義聖句である3 ニーフアイ 12：48に目立つ印を付けてもらい、聖典のこの節の隣に「イエスは、わたしたちがどのような生活を送るべきか、その方法について完全な模範を示されました」と書くよう勧めます。

セグメント 6 (10 分)

3 ニーフアイ 12：48をクラス全体で声に出して読みます。一人の生徒に、このマスター教義聖句を根拠とする教義をクラス全体に伝えてもらいます。（イエスは、わたしたちがどのような生活を送るべきか、その方法について完全な模範を示されました。）

 この教義に対する生徒の理解を深めるために、「キリストのような特質」（2：54）のビデオを見せます。このビデオはLDS.orgで視聴できます。ビデオを見ながら、救い主の特質のうち、自分の生活の中で伸ばすことのできるものを見つけてもらいます。ビデオを見た後、それらの特質を挙げてもらい、生徒たちの提案をホワイトボードに書き出します。（ビデオを見ることができない場合、代わりに以下の方法を考えてみるとよいでしょう：生徒たちに、キリストの特質のうち、わたしたちが伸ばすことのできるものを挙げてもらい、生徒たちの提案をホワイトボードに書き出します。謙遜や従順、親切などの特質が挙げられるでしょう。これらの特質から幾つか選んで説明するために、救い主の生涯にどのような模範がみられるか、短く話し合ってもよいでしょう。）

- 先に挙げたような事柄について主の模範に従っている人から、そのことで祝福を受けた経験はありますか。
- これらの特質を取り入れようと努力したおかげで、だれかを助けることができたという経験はありますか。

一人の生徒に、ハワード・W・ハンター大管長（1907 - 1995 年）が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「あらゆる方法で、また生活のあらゆる場面で、神の御子に従いましょう。主をわたしたちの模範とし、導き手としましょう。どのような場面にあっても、『イエスならどうなさるだろうか』と自問し、その答えにもっと勇気を持って従う必要があります。最も純粋な意味でキリストに従わなくてはなりません。主が天の御父の業に携わられたように、わたしたちも主の業に携わらなければならないのです。……この世で唯一の完全で罪のない模範であるキリストのようになるために、力の限りを尽くし、あらゆる努力をしなければなりません。」(『歴代大管長の教え——ハワード・W・ハンター』 281)

生徒たちに、日常生活の中で救い主の模範に従う方法を幾つか考えてもらいます。生徒たちが考えている間、ホワイトボードに次の未完成の文章を書きます：

わたしは_____ことによって、救い主の模範によりよく従います。

生徒に、クラスノートか学習帳の中でこの文を完成させてもらいます。書いた目標を実行し、イエス・キリストの模範に従う勇気を持つことができるよう生徒たちを励まします。

セグメント7 (10分)

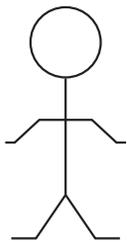
一人に生徒に3 ニーフアイ 18：15, 20 - 21を読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、救い主がニーフアイ人に与えられた勧告を見つけてもらいます。この聖句がマスター教義聖句であることを指摘します。生徒たちに、この聖句に目立つ印を付けるよう勧めます。

- 救い主はニーフアイ人にどんなことをするよう勧告されましたか。

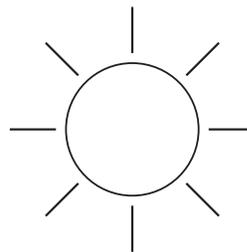
救い主が3 ニーフアイ 18：20 - 21で、「わたしの名によって」祈るよう繰り返し指示しておられることを指摘します。

- 常に御自分の名によって天の御父に祈るよう、救い主がわたしたちに命じておられるのはなぜだと思いますか。

イエス・キリストの御名によって祈る理由を生徒たちが理解するのを助けるため、次の図をホワイトボードに描きます：



わたしたち



天の御父の前

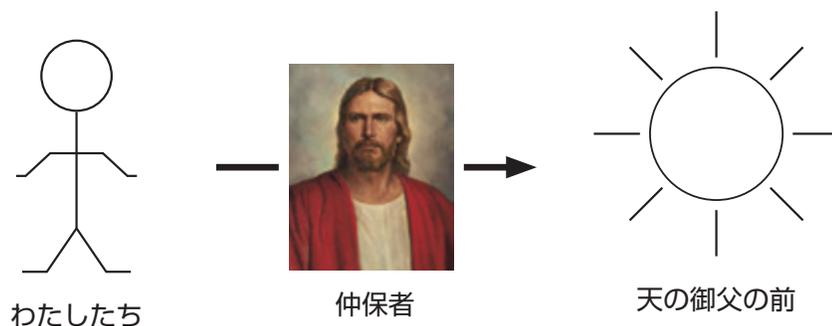
ホワイトボード上で、わたしたちを表す絵と、天の御父の存在を表す絵の間に縦に線を引きます。

- わたしたちを天の御父の力と祝福から隔てているものは何でしょうか。

生徒たちが答えた後、縦に引いた線の隣に「墮落」と「個人の罪」と書きます。救い主の絵を縦に引いた線の上に置き、その絵の下に「仲保者」と書きます。

- 仲保者とは何ですか。（意見の違いを解決して一致をもたらすために個人や集団の間を仲介する人物。）
- どのような方法でイエス・キリストは天の御父に対するわたしたちの仲保者になっておられますか。（救い主は贖いの犠牲を通して、すべての人が墮落による負の影響を乗り越え、罪を悔い改め、天の御父と和解し、救いの祝福を受けることができるよう、その道を備えられています。わたしたちがイエス・キリストの御名によって御父に祈る理由の一つがこれです。）

わたしたちが天の御父と和解するための道を救い主が備えられましたが、それを説明するために、わたしたちを表す絵から天の御父の存在を表す絵に向かって矢印を描きます。



- 祈りのほかに、イエス・キリストの御名によって行うよう命じられているものには何がありますか。（生徒たちの答えをホワイトボードに書きます。）

ホワイトボードに次の教義を書きます：**イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、わたしたちと御父との間の仲保者であります。そのため、あらゆる祈りと祝福、神権の儀式は主の御名により行わなければなりません。**生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ1、「神会」の中の「イエス・キリスト」のセクションにあるこの文章に印を付けてもらい、聖典の3 ニーフアイ 18：15、20 - 21の隣にこの文章を書くように勧めます。

セグメント 8 (10 分)

ホワイトボードに次の教義を書きます：イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、わたしたちと御父との間の仲保者であります。そのため、あらゆる祈りと祝福、神権の儀式は主の御名により行わなければなりません。生徒たちに、この教義の根拠となるマスター教義聖句を見つけてもらいます（3 ニーフアイ 18：15、20 - 21）。聖句を最初に見つけた生徒に声に出して読み始めてもらい、ほかの生徒には聖句を見つけ次第、一緒に読んでもらいます。

祈りや祝福、神権の儀式でイエス・キリストの御名を使うことによって、主の神聖な権能と力がもたらされることを説明します（アブラハム 1：18）。

生徒たちを2人か3人のグループに分けます。ホワイトボードに次の参照聖句を書き、各グループに聖句を一つまたは複数割り当てます：使徒行伝 2：37 - 38；教義と聖約 84：66 - 70；モーセ 1：21 - 22。

各グループで割り当てられた聖句を読んでもらい、イエス・キリストの御名によって祈りや祝福、神権の儀式が行われた結果、どのようなことが起きたか、それを見つけてもらいます。十分な時間を取った後、各グループの一人に見つけたことを発表してもらいます。

生徒たちに、イエス・キリストの御名によって行われた祈りや神権の祝福、神権の儀式を通して、どのように生活に祝福がもたらされたか、考えてもらいます。数人の生徒に彼らの経験を分かち合ってもらいます。

実践練習 (15分)

生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」のセクションを開いてもらいます。次の3つの原則を復習します：「信仰をもって行動する」、「永遠の視点から概念や疑問について調べる」、「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」

次の質問を見せるか、ホワイトボードに書きます：

この女の子の姉は、妹が信仰をもって行動できるよう、どのように助けましたか。
 この女の子の姉は、妹が永遠の視点から概念や疑問について調べられるよう、どのように助けましたか。
 この女の子の姉は、妹が神が定められた情報源を通してさらに理解を深められるよう、どのように助けましたか。



この学習経験の最後に、クラスを二人一組に分け、各組にこの姉妹のメールのやり取りを書いた配付資料を一枚渡します。シナリオを読み、ホワイトボードに書かれた質問について話し合ってもらいます。

生徒たちに質問の答えについて話し合ってもらった後で、何人かの生徒に自分たちの答えを紹介してもらいます。神がその子供たち一人一人を完全に愛しておられ、すべての人は神の目に等しい存在であるというあなたの証を分かち合います。生徒たちに、天の御父がご覧になっておられるような見方でほかの人を見る努力をするよう勧めます。

マスター教義の復習

次の活動は、生徒たちがモルモン書のセミナリー学習コースで学んだすべてのマスター教義聖句を復習するのに役立ちます。

ホワイトボードに、これまでに学んだモルモン書のマスター教義聖句を書きます。これらのマスター教義聖句の一つから、聖句についての短い考えを分かち合う準備をしてもらうために5-7分の時間を取ります。聖句についての考えを分かち合うときに次のようにしてもらいます：

1. 選んだマスター教義聖句を読む。
2. その聖句が『マスター教義に関する基本文書』の教義についてどのように教えているか、またはなぜその根拠となっているかを説明する。

3. その教義が自分にとってどのような意味を持つかを説明する。
4. その教義が青少年にとって理解することが重要だと考える理由を伝える。
5. その教義について短い証を分かち合う。

時間に余裕がある場合、これから一週間、デイボーショナルの一部として、またはクラスの初めか終わりに何人かの生徒に聖句についての考えを分かち合ってもらいます。

携帯メールの会話

この前元気なかったけど、大丈夫？

あまり。

どうしたの？

友達とお昼ご飯を食べていたら、女の子たちが通りかかったの。すると、友達の一人がその女の子たちを指差して、服装がおかしいってとてもひどいことを言ったの。ほかの友達も一緒になって言い始めて。それほど悪いことではないし、ただの冗談だったのだけれど。

それで落ち込んだのね。

そうなの。すごく嫌な気持ちになっちゃって。😞

その女の子たちは知ってる子たちだったの？

あまりよく知らないの。……ただ、外見が違っていただけよね。

今日、似たようなことをセミナーで話し合ったの。わたしたちは時々、外見や行動が違うというだけで、すぐに自分たちはほかの人たちよりも優れていると思ってしまうことがあるわよね。

そう。お昼ご飯のときに、それが起こったのよ。

わたしたちは第2ニーファイ26章33節を読んだの。すべての人が神にとって等しい存在だと書いてあるわ。神はすべての人を愛しておられるし、わたしたちは皆、神にとって大切な存在なのよ。だから、神がご覧になるような目で人を見るべきだとわたしは思うわ。



確かにそうね。それを心に留めておけば、ほかの人に対する見方や接し方が変わってくるかもしれないわね。

そう、わたしも同感よ。先生はこんな言葉も引用したわ。ウークトドルフ管長の言葉で、すごく気に入ったの。「神は人の外見を見てはおられません。……わたしたちは不完全ですが、神はわたしたちを完全に愛しておられます。」

とてもいい言葉ね。要するに、教会員の行動を正しいと思っている友達ばかりではないし、こんなことが起きると、わたしはいつも、どうしたらいいのかわからなくなってしまうということなのよね。

そうね。こんなことが起きると、わたしはいつも救い主のことを思うわ。こんなとき、救い主ならどうなさるだろうかって考えるの。

救い主ならたぶん、友達に何か言って、良いサマリヤ人とか、それに似たことを教えられたでしょうね。わたしも何か言うべきだったのかもしれませんが、とても言いにくかったの。友達に何て言われるかと思うと、怖くて。

言うべきことを言うのって、簡単じゃないわよね。どんなことが役に立つと思う？

救い主の模範を思い出ささえすればいいのかな。すごく勇気があって、人から見捨てられた人に対してもすごく優しい御方だったから。祈ることもできるわ。祈りはいつでも助けになるものね。

いいんじゃない？

相談に乗ってくれてありがとう！

だって、わたしたちは姉妹だもの。😊



救いの計画

注：次のマスター教義の活動は、数回のレッスンを通じて行うことも、一回のレッスンで行うこともできます。

教義を理解する (50 分)

セグメント 1 (10 分)

ホワイトボードに救いの計画と見出しを書きます。生徒にホワイトボードのところにきて、救いの計画で最も大切な要素だと思うことを幾つか書いてもらいます。

何人かの生徒に『マスター教義に関する基本文書』の「救いの計画」の、教義のテーマ 2 にある最初の三つの段落を読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、救いの計画に含まれるほかの要素を見つけるように言います。各段落を読んだ後で、生徒たちが見つけたことを発表してもらいます。生徒たちの答えをホワイトボードのリストに加えます。

生徒に第 2 段落にある次の教義に関する文に印を付けてもらいます：**道徳的な選択の自由、すなわち選択し自分自身で行動する能力も天の御父の計画に不可欠です。わたしたちの永遠の進歩は、この賜物をどのように使うかにかかっています。**

- モルモン書に関するマスター教義聖句の中で、この教義に関する文の根拠となるのはどの聖句でしょうか。(生徒に聖典の 2 ニーフアイ 2：27 に、よく目立ち、すぐ見つけられるような印を付けてもらいます。)

生徒が 2 ニーフアイ 2：27 の内容をよく理解できるよう、この聖句には、亡くなる少し前に、リーハイが息子たちに教えた真理が含まれていることを説明します。一人の生徒に、2 ニーフアイ 2：27 を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、わたしたちの行使する選択の自由がわたしたちの永遠の進歩に及ぼす影響について述べている言葉や文章を見つけるように言います。

- 2 ニーフアイ 2：27 のどのような語句から、わたしたちの行使する選択の自由がわたしたちの永遠の進歩に及ぼす影響が分かるでしょうか。(生徒は次のような言葉を口にするはずで「人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。」)
- 「すべての人の偉大な仲保者」とはだれのことでしょうか。(イエス・キリスト)
- イエス・キリストに従うという選択は、どのようにしてわたしたちを自由にするでしょうか。
- 悪魔の誘惑に屈服するという選択は、どのようにして束縛と死を引き起こすでしょうか。(よくない選択は、依存症、不健康、肉体の死、そして霊の死を招きます。霊の死とは神の臨在と神の御霊との交わりから断たれることを意味します。)

セグメント 2 (10 分)

2 ニーフアイ 2：27 をクラス全体で声に出して読みます。この節から選択の自由について学べる教義を生徒たちに言ってもらいます。永遠の進歩は、神が与えてくださった選択の自由、すなわち選択し自分自身で行動する能力にかかっているということを生徒は思い起こすはずで。

わたしたちが選択の自由を行使し、神の御心を行い、神の戒めを守るときに、そのような生き方は人を制限し、人の個性を失わせると言って批判する人もいることを指摘します。

- そのような批判に対してどのように答えるでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会の D・トッド・クリストファーソン長老が語った次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒たちには、選択の自由を正しく行使する人がどのようにして自分の可能性を最大限に発揮できるのか聞き取るように言います。



「選択の自由を行使して神の御心を選び、状況が厳しくなっても引き下がらないからと言って、わたしたちは神の操り人形になるわけではありません。そうではなく神のようになるのです。神はわたしたちに選択の自由をお与えになりました。また、イエスはわたしたちに選択の自由の使い方を示してくださいました。最終的には御二方が御存じのことを知り、御二方が行われることを行い、御二方と同じような人物になるためです。」(D. トッド・クリストファーソン, “Moral Agency,” Ensign,

June 2009, 53)

- 選択の自由を使って神の御心を選ぶことは、どのように自分の可能性を最大限に発揮するのに役立つでしょうか。

生徒に、どうすれば神の御心を選ぶために、選択の自由をより正しく行使することができるか、よく考えてクラスノートか学習帳に書いてもらいます。よく考えて書くときに御霊の導きを求め、自分たちが受けるすべての促しに従って行動するよう生徒に勧めます。

セグメント 3 (10 分)



『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 2「救いの計画」を研究し続けるための一助として、生徒に以下の正誤問題に答えるよう勧めます。生徒全員に配付資料に関するクイズを配ります。



救いの計画

正誤問題

- ___ 1. 救い主と何人かの選ばれた人だけが、前世で開かれた天上の会議に参加した。
- ___ 2. 天の御父の子供たちは皆、死すべき状態を経験する。
- ___ 3. すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されている。
- ___ 4. エデンの園において、アダムとエバは神により結婚した。
- ___ 5. 霊の死とは霊が肉体から離れることである。
- ___ 6. 墮落の結果、アダムとエバは子供をもうけ、アダムとエバとその子孫は喜びと悲しみを味わい、善悪を知り、進歩することができるようになった。



時間を十分に取ってから、生徒を二人一組または小グループに分け、その答えを確認してもらいます。そのために、『マスター教義に関する基本文書』の「救いの計画」、教義のテーマ 2 の「前世」、「創造」、「墮落」の項にある複数の段落を一緒に読みます。

生徒は答えを確認後、クラス全体で、クイズの答えを確認します。正しい答えは下記のとおりです：1. 誤；2. 誤；3. 正；4. 正；5. 誤；6. 正。

質問6について話し合うとき、生徒に「墮落」の項の最後の段落にある以下の教義に関する文に印を付けるように勧めます：**墮落の結果、アダムとエバは子供をもうけることができるようになりました。アダムとエバとその子孫は、喜びと悲しみを経験し、善悪を知り、進歩することができるようになったのです。**

セグメント 4 (10 分)

次の教義に関する文をホワイトボードに書きます：墮落の結果、アダムとエバは子供をもうけることができるようになりました。アダムとエバとその子孫は、喜びと悲しみを経験し、善悪を知り、進歩することができるようになったのです。

『マスター教義に関する基本文書』の「救いの計画」、教義のテーマ2の「墮落」について取り上げた後、以下の質問をします：

- マスター教義聖句の中で、この教義に関する文の根拠となるのはどの聖句でしょうか。（2 ニーフアイ 2：22 - 25によく目立つよう印を付けるように勧めます。）

一人の生徒に、2 ニーフアイ 2：22 - 25を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒たちには、聖句を目で追いながら、ホワイトボードにある教義に関する文の根拠となっている語句を見つけてもらいます。

- この聖句で、ホワイトボードにある教義に関する文の根拠となっているのはどのような語句でしょうか。

アダムとエバの墮落は大きな過ちだったと思い込んでいる人がいることを指摘してください。一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オックス長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、禁じられた実を取るアダムとエバの決心について、オックス長老がどのように語っているか聞き取るように言います。



「エデンの園に設けられていた禁制を最初に破ったのはエバでした。それによって死すべき体を受けることになりました。エバの行為は、どう解釈しようと、形式的には戒めに対する違背であったことは確かです。しかし、永遠の立場から見ればそれは永遠の命への扉を開けるうえで必須の栄えある行為だったのです。アダムはよく知恵を使った結果、同じ行為を選びました。このように、エバと『アダムが墮落したのは人が存在するため』だったのです。（2 ニーフアイ 2：25）

一部のキリスト教徒は、エバの行為を非難し、そのためにエバとその娘たちは何らかの欠点があると考えています。しかし、末日聖徒は違います。啓示を通して真相を知っているわたしたちは、エバの行ないをたたえ、墮落と呼ばれている偉大な出来事に際して彼女が示した知恵と勇気に敬意を表するものです。……ジョセフ・フィールディング・スミス長老はこう述べました。『墮落でエバの果たした役割をわたしは決して罪とは呼ばないし、アダムも罪を犯したと責めるつもりはない。……これは律法に対する背きではあったが、罪ではなかった。これはアダムとエバがしなければならない事柄だったからである。』（ジョセフ・フィールディング・スミス、『救いの教義』、ブルース・R・マッコスキー編、全3巻、ソルトレークシティ：Bookcraft, 1954 - 1956年、第1巻：114 - 115）（ダリン・H・オックス、「人に幸福を与える偉大な計画」『聖徒の道』1994年1月号、81 - 82）

- 禁じられた実を取るアダムとエバの決心について、オックス長老はどのように語っているでしょうか。
- アダムとエバの墮落が天の御父の救いの計画に不可欠なのはなぜでしょうか。自分の言葉で説明してください。

セグメント 5 (10 分)

生徒に、葬儀で話すよう依頼されたかと想像するように言います。その葬儀に出席した人たちは、教会の教えについてほとんど何も知りません。生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の「救いの計画」、教義のテーマ 2 の「死すべき生涯」と「死後の生活」の項を読んでもらいます。葬儀での話に含めなければならないと思う真理について考えるように励まします。見つけたものに印を付けるよう勧めます。

隣りの人に、どの真理に印を付けたか、またどうしてその真理を葬儀で分かち合わなければならないと思ったか説明してもらいます。

活動の結びとして、次の質問をするとよいでしょう：

- 救いの計画に関する理解は、愛する人が亡くなったとき、どのような祝福をもたらしてくれたでしょうか。

実践練習 (30 分)

『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」の項に記載されている以下の 3 つの原則を生徒と復習します：「信仰をもって行動する」「永遠の視点から概念や質問について調べる」「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」。



クラスを 2, 3 人ずつのグループに分けます。次の配付資料のコピーをそれぞれのグループに配り、完成してもらいます：



1. 次のシナリオを声に出して読んで、この若い男性と同じような状況や質問に直面したことがないか、考えてください：

先週の金曜日、ジョンは何人かの友人と昼食を取っていました。そのとき、一人の友人からその日の夜に行われるパーティーに来るかどうか尋ねられました。ジョンはこのパーティーのことについて、その週ずっと聞きました。何度も聞いて、そのパーティーに自分に行くべきでないことがよく分かりました。ジョンはこう答えました。「いや、今回は遠慮しとくよ。片付けないといけないことが幾つかあるしね。」

一緒に食事をしていた女の子の一人がこう尋ねました。「ジョン、これって、あなたの宗教と関係があるんじゃないの？ モルモンって楽しいことは禁止って聞いたことがあるけど、あなたの教会には、どうしてそんなにたくさんのルールがあるの？」横で聞いていた男の子も割って入りました。「そのとおりだよ。君の教会はどうして自分で選ばせてくれないの？」

ジョンは必死で友人たちに答える方法を見つけようとしていました。そのとき、授業開始のベルが鳴り、皆、その場を立ち去りました。教室へ戻りつつ、ジョンは友人たちとの会話の内容を頭の中で振り返りました。このパーティーは自分が行くべきパーティーでないことは分かっていたのですが、理由の説明に苦労していること、また友人たちの質問に対する答え方がよく分からないことに驚きました。

2. 次の質問についてグループで話し合います：

- ここまでのシナリオで、ジョンはどのように信仰をもって行動しましたか。
- なすべきことを知っていても、人は恐れのために信仰をもって行動することができないこともあります。昼食での経験の結果、ジョンはどのような恐れや不安を抱いたのでしょうか。
- そうした恐れや不安と向き合い、パーティーに出席しないという決意を貫き通すうえでどのようなことが助けとなるのでしょうか。

3. シナリオの続きを声に出して読んでください：

ジョンは昼食の時に友人たちから尋ねられた質問について考え続けました：「あなたの教会には、どうしてそんなにたくさんのルールがあるの?」「君の教会はどうして自分で選ばせてくれないの?」これらの質問について考えたとき、ジョンははっきりと分かりました。教会の標準と戒めに対する見方が学校の友人たちとは違っていたのです。

4. 次の質問についてグループで話し合います：

- ジョンの友人たちが尋ねた質問からすると、友人たちは戒めと選択についてどのような信念や思い込みがあるのでしょうか。
- 永遠の視点から戒めと選択について考えるのに役立つこととして、2ニーファイ2：27からどのようなことが学べるのでしょうか。
- 永遠の視点から戒めと選択について考えるのに役立つこととして、救いの計画とイエス・キリストや預言者の教えについてほかにどのようなことを知っているのでしょうか。

5. シナリオの続きを声に出して読んでください：

ジョンはこの問題についてさらに考えました。そして、もしパーティーに参加すれば、例えば、聖霊を伴侶とすることができなくなるなど、経験したくないことを経験する可能性があるということを理解しました。その夜、パーティーに出席する代わりに、ジョンは弟とバスケットボールをして遊ぶことにしました。後で、ひざまずいて祈ったとき、ジョンは正しい選択をしたという御霊の確認を感じました。

十分に時間を取ってから、数人の生徒に、この活動を通して話し合ったことや学んだことを発表してもらいます。

最後に、わたしたちがイエス・キリストに従うことを選ぶために選択の自由を行使するとき、わたしたちは霊的に進歩し、主が忠実な人たちに約束された祝福にあずかることができることを証するとよいでしょう。

マスター教義の復習

生徒に二人一組で話し合うよう割り当て、『マスター教義参照ガイド』を使って、これまでに学んだマスター教義聖句とそれに付随するキーワードを研究、復習するよう勧めます。時間を十分に取ってから、生徒は互いにクイズを出し合うとよいでしょう。そのために、一人が参照聖句を言い、もう一人がそのマスター教義聖句に対応するキーワードを何も見ずに言います。二人ともキーワードについてのクイズを出し終えたら、今度は、一人の生徒がキーワードを言って、もう一人の生徒が正しいマスター教義聖句を特定できるかどうか確認するクイズを出し合うとよいでしょう。生徒が、マスター教義聖句の参照先を知っていれば、ほかの人に福音を教えたり、質問に対する答えを見つけたりするときに役立つということを理解できるように助けます。

この活動の代替案として、生徒が電子機器を持っていたら、彼らに時間を与え、公式のセミナーマスター教義アプリをダウンロードしてもらおうとよいでしょう。マスター教義アプリは無料であり、App Store（Apple機器）やGoogle Play（Android機器）で「LDSマスター教義」を探せば、どの携帯Apple機器やAndroid機器でも利用することができます。生徒がアプリをダウンロードしたら、数分間与えて、アプリのフラッシュカードやクイズ活動に取り組むとよいでしょう。

救いの計画

正誤問題

- ___ 1. 救い主と何人かの選ばれた人だけが、前世で開かれた天上の会議に参加した。
 - ___ 2. 天の御父の子供たちは皆、死すべき状態を経験する。
 - ___ 3. すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されている。
 - ___ 4. エデンの園において、アダムとエバは神により結婚した。
 - ___ 5. 霊の死とは霊が肉体から離れることである。
 - ___ 6. 墮落の結果、アダムとエバは子供をもうけ、アダムとエバとその子孫は喜びと悲しみを味わい、善悪を知り、進歩することができるようになった。
-

救いの計画

正誤問題

- ___ 1. 救い主と何人かの選ばれた人だけが、前世で開かれた天上の会議に参加した。
- ___ 2. 天の御父の子供たちは皆、死すべき状態を経験する。
- ___ 3. すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されている。
- ___ 4. エデンの園において、アダムとエバは神により結婚した。
- ___ 5. 霊の死とは霊が肉体から離れることである。
- ___ 6. 墮落の結果、アダムとエバは子供をもうけ、アダムとエバとその子孫は喜びと悲しみを味わい、善悪を知り、進歩することができるようになった。



実践練習

1. 次のシナリオを声に出して読んで、この若い男性と同じような状況や質問に直面したことがないか、考えてください：

先週の金曜日、ジョンは何人かの友人と昼食を取っていました。そのとき、一人の友人からその日の夜に行われるパーティーに来るかどうかが尋ねられました。ジョンはこのパーティーのことについて、その週ずっと聞いていました。何度も聞いて、そのパーティーに自分に行くべきでないことがよく分かりました。ジョンはこう答えました。「いや、今回は遠慮しとくよ。片付けないといけないことが幾つかあるしね。」

一緒に食事をしていた女の子の一人がこう尋ねました。「ジョン、これって、あなたの宗教と関係があるんじゃないの？モルモンって楽しいことは禁止って聞いたことがあるけど、あなたの教会には、どうしてそんなにたくさんのルールがあるの？」横で聞いていた男の子も割って入りました。「そのとおりだよ。君の教会はどうして自分で選ばせてくれないの？」

ジョンは必死で友人たちに答える方法を見つけようとしていました。そのとき、授業開始のベルが鳴り、皆、その場を立ち去りました。教室へ戻りつつ、ジョンは友人たちとの会話の内容を頭の中で振り返りました。このパーティーは自分に行くべきパーティーでないことは分かっていたのですが、理由の説明に苦労していること、また友人たちの質問に対する答え方がよく分からないことに驚きました。

2. 次の質問についてグループで話し合います：

- ここまでのシナリオで、ジョンはどのように信仰をもって行動しましたか。
- なすべきことを知っていても、人は恐れのために信仰をもって行動することができないこともあります。昼食での経験の結果、ジョンはどのような恐れや不安を抱いたでしょうか。

- そうした恐れや不安と向き合い、パーティーに出席しないという決意を貫き通すうえでどのようなことが助けとなるのでしょうか。

3. シナリオの続きを声に出して読んでください：

ジョンは昼食の時に友人たちから尋ねられた質問について考え続けました：「あなたの教会には、どうしてそんなにたくさんのルールがあるの？」「君の教会はどうして自分で選ばせてくれないの？」これらの質問について考えたとき、ジョンははっきりと分かりました。教会の標準と戒めに対する見方が学校の友人たちとは違っていたのです。

4. 次の質問についてグループで話し合います：

- ジョンの友人たちが尋ねた質問からすると、友人たちは戒めと選択についてどのような信念や思い込みがあるのでしょうか。
- 永遠の視点から戒めと選択について考えるのに役立つこととして、2 ニーファイ 2：27からどのようなことが学べるのでしょうか。
- 永遠の視点から戒めと選択について考えるのに役立つこととして、救いの計画とイエス・キリストや預言者の教えについてほかにどのようなことを知っているのでしょうか。

5. シナリオの続きを声に出して読んでください：

ジョンはこの問題についてさらに考えました。そして、もしパーティーに参加すれば、例えば、聖霊を伴員とすることができなくなるなど、経験したくないことを経験する可能性があるということを理解しました。その夜、パーティーに出席する代わりに、ジョンは弟とバスケットボールをして遊ぶことにしました。後で、ひざまずいて祈ったとき、ジョンは正しい選択をしたという御霊の確認を感じました。



イエス・キリストの贖罪

注：次のマスター教義の活動は、数回のクラスを通じて行うことも、1回のクラスで行うこともできます。

教義を理解する（100分）

セグメント1（10分）

次の質問をホワイトボードに書きます：

- イエス・キリストの贖罪とは何でしょうか
- イエス・キリストの贖罪が必要なのはなぜでしょうか

生徒たちに、二人一組になって、この二つの質問の答えを話し合ってもらいます。十分に時間を取ってから、生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」を開いてもらいます。一人の生徒に最初の段落を、もう一人の生徒に第3段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、イエス・キリストの贖罪とは何か、なぜわたしたちにはそれが必要なのかを理解するのに役立つ文章や言葉はどれか考えてもらいます。見つけたところに印を付けるよう生徒に勧めるとよいでしょう。

- イエス・キリストの贖罪とは何かを理解するのに役立つのは、どの文だと思いましたか。（生徒が第1段落の以下の文を指摘できるようにします：**イエス・キリストが苦しみと死を身に受け復活を遂げるにより、霊と肉体の死に打ち勝たれたことを贖罪と呼びます。**）

生徒が救い主の苦しみと死、復活のイメージをつかみやすくするために、以下の絵を見せます：「ゲツセマネで祈られるイエス」（『福音の視覚資料集』56番；LDS.orgも参照）；「十字架へのはりつけ」（『福音の視覚資料集』57番；LDS.orgも参照）；「イエスの埋葬」（『福音の視覚資料集』58番；LDS.orgも参照）；「マリヤと復活されたイエス・キリスト」（LDS.org参照）

- イエス・キリストの贖罪が必要なのはなぜかを理解するのに役立つのは、二つの段落のどの文または言葉だと思いましたか。

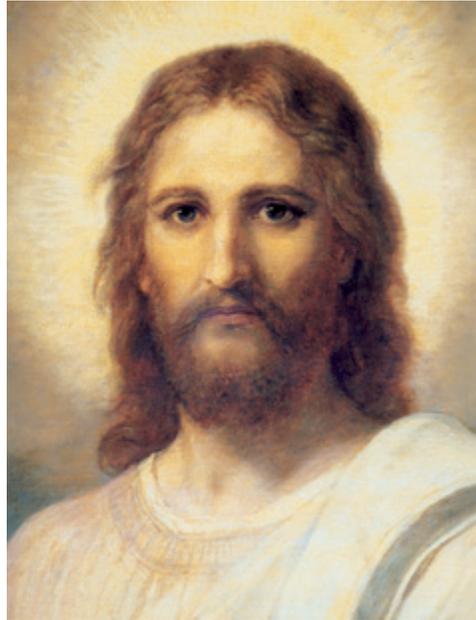
わたしたちの罪を贖う意志と能力をイエス・キリストが持っておられたおかげで自分はどのように祝福されているか、生徒たちに考えてもらいます。

セグメント 2 (10分)

救い主の絵をホワイトボードに掲示し（例えば「イエス・キリスト」〔『福音の視覚資料集』1番；LDS.orgも参照〕）、その横または下に、次の見出しを書きま
す：似ている点と異なる点。

- 救い主とわたしたちの似ている点はどこでしょうか。異なる点はどこでしょうか。（生徒たちの答えを、ホワイトボードのそれぞれの欄に書きます。）

生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」を開いてもらいます。一人の生徒に第2段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、救い主が天の御父のほかのすべての子供たちと異なっている点を述べている言葉はどれか、考えてもらいます。



- この段落には、イエス・キリストは天の御父のほかのすべての子供たちとどこが違うと書いてありましたか。（相違点として新しい意見が出たら、ホワイトボードに書き加えます。）

自分の『マスター教義に関する基本文書』を開いて、次の教義に印を付けるよう生徒に勧めます：**わたしたちはイエス・キリストによってのみ救われることができます。なぜなら、イエスは全人類のために無限にして永遠の贖罪を成し遂げることのできる唯一の御方だったからです。**

- イエス・キリストが無限にして永遠の贖罪を成し遂げることのできる唯一の御方だったのはなぜでしょうか。話し合った内容を基にして考えてください。

救い主が神の属性を持っておられることと、だからこそ無限にして永遠の贖罪をわたしたちのために行うことがおできになったことを、教師が証してもよいでしょう。

セグメント 3 (10分)

次の教義をホワイトボードに貼るか、書きます：わたしたちはイエス・キリストによってのみ救われることができます。なぜなら、イエスは全人類のために無限にして永遠の贖罪を成し遂げることのできる唯一の御方だったからです。生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」の第2段落を参照してもらいます。

- ホワイトボードに書かれている教義の根拠となるマスター教義聖句はどれでしょうか。（アルマ 34：9－10。自分の聖典のこの聖句に、目立つ印を付けて、見つけやすくするよう生徒に勧めます。）

アルマ 34：9－10の背景を生徒たちに理解してもらうために、この聖句はアミュレクがゾーラム人という民に対して行った説教の一部だということを説明します。アミュレクはゾーラム人がイエス・キリストを信じて悔い改めることができるように、アルマとともに働きました。

次の質問をホワイトボードに書くか、配付資料として生徒に渡します：

- アルマ 34：9 - 10のどの部分がホワイトボードにある教義の根拠になっているでしょうか。
- どんな犠牲では不十分だとアミュレクは言っていますか。なぜそれでは不十分なのでしょう。
- イエス・キリストがわたしたちのためにささげてくださった犠牲はどんな言葉で表現されていますか。（自分の聖典のこの言葉に印を付けてもいいでしょう。）

生徒を二人一組に分けます。各組でアルマ 34：9 - 10を読んでホワイトボード（または配付資料）の質問について話し合ってもらいます。十分な時間を取った後、これらの質問の答えを生徒たちに発表してもらいます。

十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン会長の次の言葉を、一人の生徒に声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、イエス・キリストの贖罪がどのような点で「無限」だとネルソン会長が言っているか（アルマ 34：10）、聞き取ってもらいます。



「旧約聖書という準備の時代には、〔動物を犠牲としてささげる〕慣習は有限なものでした。すなわち制限がありました。それはキリスト・イエスの究極の贖罪を象徴的に表す予型でした。主の贖罪は無限で、終わりがありません。贖罪は全人類が永久の死から救われるということにおいても無限です。主の計り知れない苦難に関しても無限です。……贖罪は範囲においても無限で、ただ1度だけ行われればよかったです。贖罪の効力は無数の人々だけでなく、主によって造られた無数の世界にも及んでいます。人間のいかなる尺度も理解も超えた無限の贖罪なのです。」

イエスがそのような無限の贖罪のできる唯一の御方であったのは、死すべき母と不死不滅の御父との間にお生まれになったからです。この特異な生得権のゆえに、イエスは無限の御方なのです。」（ラッセル・M・ネルソン「贖い」『聖徒の道』1997年1月号、40 参照）

イエス・キリストがなぜ贖罪を行える唯一の御方だったのかを人に理解してもらうためにアルマ 34：9 - 10をどう使うことができるかを何人かの生徒にクラスのほかの生徒たちに対して説明してもらいます。

セグメント 4 (10 分)

以下の絵をホワイトボードに掲示します：「ゲツセマネで祈られるイエス」（『福音の視覚資料集』56 番；LDS.orgも参照）
「十字架へのはりつけ」（『福音の視覚資料集』57 番；LDS.orgも参照）

- イエス・キリストは贖罪の一環としてわたしたちの罪のために苦しまれただけでなく、ほかにどんなことを経験されましたか。（生徒たちの答えをホワイトボードに書きます。）



生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」の第4段落の最初の2文を黙読してもらい、救い主が贖罪の際にどんなことを経験されたか書いてあるか考えてもらいます。

- これらの文章の中で見つけたことから考えると、救い主は贖罪の一環としてどんなことを経験されましたか。

自分の『マスター教義に関する基本文書』の以下の教義に印を付けるよう生徒に勧めます：**贖罪の一環として、イエス・キリストはわたしたちの罪のために苦しまれただけでなく、全人類の苦痛、誘惑、病氣、弱さをその身に受けられました。**



- この教義の根拠となるモルモン書のマスター教義聖句はどれでしょうか。（アルマ7：11－13。この聖句に目立つ印を付けるよう生徒に勧めます。）

一人の生徒にアルマ7：11－13を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、イエス・キリストが贖罪の際に経験された事柄を述べている語句はどれか、考えてもらいます。

- イエス・キリストが贖罪の際に経験された事柄を述べているのは、どの語句だと思いましたか。

その言葉には、わたしたちが人生で経験するあらゆる苦痛や困難、試練が含まれていることを説明します。

- イエス・キリストはわたしたちが人生で経験することをすべて完全に理解しておられます。このことを知っておくのが大切なのは、なぜでしょうか。

救い主が苦しみを受けられた理由の一つは「御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを」知るためだったとアルマ7：12で教えられていることを指摘します。一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の話を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、救うという言葉の意味を聞き取ってもらいます。



「『救う (Succor)』という言葉の意味を御存じですか。聖文ではキリストがわたしたちに関心を示し、注目しておられることを表す場合にしばしば用いられています。『何かに向かって走る』というのが文字どおりの意味です。救い主がわたしたちのために行ってください緊急的な手立てを表す言葉としてまさにうってつけの言葉であると言えます。救い主はわたしたちにみもとへ来て、主に従うよう勧めておられますが、救い主は必要な場合に必ず、走って助けに来てくださいます。」(ジェフリー・R・ホルンド、「きてごらんなさい」[ブリガムヤング大学ファイアサイド, 1997年3月2日] speeches.byu.edu)

「『救う』という言葉 (訳注—英語では“succor”) には「……に駆けつける」という意味があります。わたしが恐れや、弱さを感じていたときに、主が確かにわたしのもとに駆けつけてくださったことを証します。わたし個人に対するこのような親切と愛にあふれた御手の働きに対し、わたしは主に言葉に尽くせぬ感謝を感じています。」(ジェフリー・R・ホルンド「主は、飢えている者を良いもので飽かせなさい」『聖徒の道』1998年1月号, 74 参照)

救い主の助けと見守りを感じたときのことを生徒たちに考えてもらいます。何人かの生徒に、彼らの経験を分かち合ってもらおうとよいでしょう。教師も、そのような経験を短く話すとよいでしょう。

セグメント 5 (5 分)

何か難しいことを頼まれたり割り当てられたりして、自分ではできないと感じたときのことを生徒に考えてもらいます。一人か二人の生徒に自分の経験を発表してもらいます。一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」の第4段落を、声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、イエス・キリストがしてくださる助けを説明している文はどれか考えてもらいます。

- イエス・キリストがしてくださる助けを説明しているのはどの文だと思いましたか。(自分の『マスター教義に関する基本文書』の次の教義に印を付けるよう生徒に勧めます：**信仰をもって主のもとへ行くと、救い主はわたしたちが重荷を背負い、自分では行うことのできないことを成し遂げられるように強めてくださるでしょう。**)
- 信仰をもって主に頼ったら、重荷に耐える力や、自分にはできないことを成し遂げる力が与えられたということがこれまでにありましたか。あれば、そのときのことを話してください。

セグメント 6 (10 分)

次の教義をホワイトボードに書きます：信仰をもって主のもとへ行くと、救い主はわたしたちが重荷を背負い、自分では行うことのできないことを成し遂げられるように強めてくださるでしょう。生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」の第4段落を参照してもらいます。

- この教義の根拠となるモルモン書のマスター教義聖句はどれでしょうか。(エテル 12：27。この聖句に目立つ印を付けるよう生徒に勧めます。)

この聖句の背景を生徒たちに理解してもらうために、エテル 12：23 – 25で預言者モロナイが記している不安について説明します。モロナイは、自分やモルモン書の他の筆者の書いた文がヤレドの兄弟の文に比べて力量において劣るために教えや証を書いてあざけられるのではないかと心配していました。

一人の生徒にエテル 12:27 を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、信仰をもって主のもとへ行くときに、救い主が力づけてくださり、自分ではできないことを成し遂げられるよう助けてくださると言っている語句はどれか考えてもらいます。

- 信仰をもって主のもとへ行くときに、救い主が力づけてくださり、自分ではできないことを成し遂げられるよう助けてくださると言っている語句は、どれだと思いましたか。（生徒は答えとして「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である」と「そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう」を挙げるでしょう。）
- 恵みとは何でしょうか（この質問に答えるために、『聖句ガイド』で「恵み」の定義を調べるよう生徒に勧めます。）
- 救い主の恵みが「十分である」とは、どのような意味だと思いますか。（救い主はわたしたちがどんな困難を経験しようとも、それに耐え、それを乗り越えられるよう助けることができになる。）
- 救い主がわたしたちの弱さを強さに変えることができになる例には、どんなものがあるでしょうか。

モロナイは自分やモルモン書のほかの預言者たちが「書き記す力が弱い」と感じていたとはいえ（エテル 12:23）、モロナイの書き記した言葉の中には、エテル 12:6、エテル 12:27、モロナイ 10:4-5 など、モルモン書の中で最も多く引用される聖句に数えられ、多くの人を救い主と天の御父に近づけてくれるものがあることを指摘します。

救い主の恵みから力を得て、重荷に耐え、自分ではできないことを成し遂げられるようにする必要に迫られるのはどんな場合か、生徒に考えてもらいます。謙遜になり、信仰をもって救い主のもとに来て必要な助けが得られるよう、生徒を励まします。

セグメント 7 (5 分)

次の質問をホワイトボードに書きます：イエス・キリストの贖罪の祝福を受けるうえで、わたしたち個人にはどんなことをする責任があるでしょうか。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 3「イエス・キリストの贖罪」の第 5 段落を、声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、ホワイトボードの質問の答えがどこに書いてあるか考えてもらいます。生徒に見つけたことを発表してもらいます。

- イエス・キリストの贖罪の祝福を受けるためにすべきことを理解するのに役立つ項目は、信仰箇条の中にもあります。それは何節でしょうか。（信仰箇条 1:3 と 1:4 をこの段落と相互参照するよう生徒たちに勧めます。）

一人または数人の生徒に、信仰箇条の 3 節と 4 節を暗唱できるかやってみよう勧めるとよいでしょう。

教義のテーマ 3「イエス・キリストの贖罪」を引き続き研究すると、イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めについてさらによく分かるようになることを指摘します。バプテスマと聖霊の賜物については、教義のテーマ 7「儀式と聖約」でさらに学習します。

セグメント 8 (10 分)

一人の生徒に、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老の以下の言葉を声に出して読んでもらいます：



「福音の第一の原則は単なる『信仰』ではありません。福音の第一の原則は『主イエス・キリストを信じる信仰』です。(信仰箇条 1:4) …… 信仰はそれ自体で単独に存在し得るものではありません。……何かを信じる、あるいは何者かを信じるということです。」(ダリン・H・オークス「主イエス・キリストへの信仰」『聖徒の道』1994年7月号, 107)

- 現代の人たちはイエス・キリストの代わりに何を信じる誘惑に駆られているでしょうか。

生徒を二人一組または少数のグループに分け、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」の「イエス・キリストを信じる信仰」という見出しの下の最初の2段落を、各組または各グループで読んでもらいます。各組またはグループで、イエス・キリストを信じる信仰を行使することがなぜ大切なのかを理解するのに役立つ語句はどれか考え、それについて話し合ってもらいます。

- イエス・キリストを信じる信仰を行使することはなぜ大切なのかを理解するのに役立つのは、二つの段落の中のどの語句でしょうか。(自分の『マスター教義に関する基本文書』の次の教義に印を付けるよう生徒に勧めます：**わたしたちの信仰が救いをもたらすのは、それがイエス・キリストに根差したものである場合に限りです。**)
- 信仰をイエス・キリストに根差したものにすると、どういう意味だと思いますか。『マスター教義に関する基本文書』の「イエス・キリストを信じる信仰」という見出しの下にある同じ二つの段落に目を通して、今度は、自分の信仰をイエス・キリストに根差したものにするにはどうしたらよいかをさらによく理解するのに役立つ語句はどれか考えてください。
- 自分の信仰をイエス・キリストに根差したものにするにはどうしたらよいかをさらに良く理解するのに役立つのはどの語句だと思いますか。(そう思った理由を生徒に説明してもらおうとよいでしょう。)

セグメント9(5分)

次の教義をホワイトボードに書きます：わたしたちの信仰が救いをもたらすのは、それがイエス・キリストに根差したものである場合に限りです。生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」を参照してもらい、以下の質問をします。

- この教義の根拠となるのは、どのマスター教義聖句でしょうか。(ヒラマン5:12。この聖句に目立つ印を付けるよう生徒に勧めます。)
- 一人の生徒にヒラマン5:12を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追ってホワイトボードに書かれた教義の根拠となっている語句はどれか考えてもらいます。
- 信仰が救いをもたらすのは、それがイエス・キリストに根差したものである場合に限るといふ教義の根拠となる語句はどれだと思いましたか。
 - 「贖い主の岩の上に基を築く」とはどういう意味だと思いますか。
 - この節に出てくる「大風」や「旋風の中に悪魔の(送る)矢」「雹と大嵐」は、何を指すと思いますか。
 - 贖い主、イエス・キリストの岩の上に基を築くよう努めてきて、あなたはどのように祝福されてきましたか。

セグメント 10 (5分)

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を、未完成のままホワイトボードに書きます。(この言葉は、『聖徒の道』1997年1月号、83ページの「王国にかかわる平和をもたらす事柄」にあります。)

「_____ ……という言葉は、福音の語彙の中で最も大きな希望と勇気、そして平安を与えてくれる言葉の一つです。」(ジェフリー・R・ホランド長老)

空欄にどんな言葉が入ると思うか生徒たちに聞きます。生徒たちが答えたら、悔い改めという言葉空欄に書き込みます。

- 悔い改めはどんな点で希望と勇気、そして平安を与えることができるのでしょうか。『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」の中の「悔い改め」という見出しの下に3段落を、3人の生徒に交代で声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、悔い改めの教義のどんな点が希望と勇気、平安を与えているか考えてもらいます。
- 今読んだことを基に考えると、悔い改めにはなぜ、希望と勇気、平安を生み出す力があるのでしょうか。

自分の罪を悔い改めるならば、イエス・キリストの贖罪を通して、だれもが平安と祝福を得ることができることを証します。

セグメント 11 (10分)

悔い改めの祝福を受けるためには悔い改めとは何かを理解する必要があることを説明します。『マスター教義に関する基本文書』の教義テーマ3「イエス・キリストの贖罪」の中の「悔い改め」という見出しの下に最初の段落を生徒に黙読してもらい、「悔い改め」の定義がどう書かれているか考えてもらいます。

- 今読んだことを基にして考えると、悔い改めとは何ですか。(自分の『マスター教義に関する基本文書』の次の教義に印を付けるよう生徒に勧めます：**悔い改めは、思いと心の変化です。悔い改めには、罪から離れ、自分の思いと行動と望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることが含まれます。**)
- 悔い改めると思いと心に起こる変化とは、どんなものなのでしょうか。(自分や神、自分が破った戒めに対する見方が変わり、心が変わって、神に近づき、良いことをしたいと思うようになる。)

純潔の律法を破るなどの重大な罪を犯した場合でも悔い改めるだけでよい、と考えている人がいることを指摘します。一人の生徒に、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、どのくらいの頻度で悔い改めるべきだと言っているか聞き取ってもらいます。



「人々のふさわしさや義の程度は一人一人異なります。それでも、悔い改めはわたしたち全員にとって祝福です。罪を赦されることによって、だれもが救い主の憐れみの御腕を感じる必要があります。……

重大な罪に立ち向かうために「心の中〔の〕大きな変化」〔アルマ 5：12〕が必要な人がいるかもしれません。神権指導者の助けが必要になることもあるでしょう。ですが、多くの人の場合、悔い改めは、必要とされる変化を起こせるよう主の助けを求めながら、静かに、自分の中で、毎日行っていくものです。』（ニール・L・アンダーセン「わたしがあなたがたを癒すことができるように、……悔い改めなさい」『リアホナ』2009年11月号、40－41）

- 必要とされる変化を起こせるよう主の助けを求めながら毎日悔い改めることが大切なのは、なぜだと思いますか。

セグメント 12 (10 分)

次の教義をホワイトボードに書きます：悔い改めは、思いと心の変化です。悔い改めには、罪から離れ、自分の思いと行動と望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることが含まれます。生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 3「イエス・キリストの贖罪」の「悔い改め」という見出しの項を参照してもらいます。

- この教義の根拠となるのは、どのマスター教義聖句でしょうか。（モーサヤ 3：19。この聖句に目立つ印を付けるよう生徒に勧めます。）

一人の生徒にモーサヤ 3：19を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、目で追って、考えや行動、望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることについてこの節ではどんなことを教えているか考えてもらいます。「生まれながらの人」とは、「聖なる御霊の促しよりも、激情、情欲、欲望、肉欲に影響された選択を」したために（『聖句ガイド』「生まれながらの人」の項、scriptures.lds.org）、迷い墮落した状態、つまり、神から切り離された状態にいる人のことを指す、と説明します。従うという言葉は、身を委ねるとか、服従するという意味です。

- 「聖なる御霊の勧めに従う」とはどのような意味だと思いますか。（聖霊の促しに従って戒めに従い、自分の罪を悔い改めること）
- モーサヤ 3：19には、聖なる御霊の勧めに従うと、人はどんなことをするようになり、どんな人になると書いてありますか。
- この節は、自分の思いを神の御心と一致させる方法についてどんなことを教えているでしょうか。

罪から離れ、自分の思いと行動と望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることが大切だということを証するとよいでしょう。生まれながらの人に從わずに聖なる御霊の勧めに従うことによって自分の思いを天の御父の御心と一致させるためにはどんなことができるか、生徒によく考えてもらいます。生徒たちがどのようなものでも御霊の促しを受けたら、それに従って行動するよう励ましてください。

実践練習 (40 – 55 分)

『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 3「イエス・キリストの贖罪」に関連して「信仰をもって行動する」「永遠の視点から概念や疑問について調べる」「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」という「霊的な知識を得る」ための 3つの原則を実際に行う練習ができるよう生徒を助けます。以下の活動はこれを達成する助けとなります。これらの活動は、一日で行うこともできますし、何日かに分けて行うこともできます。教師のスケジュールや生徒の状況、生徒に必要な事柄に合わせて、判断してください。

練習 1 (20 – 30 分)

生徒たちに宣教師になってもらい、以下のような悩みを打ち明けてきた求道者がいると想像してもらいます。

「神は信じているけれど、イエスは信じていません。誤解しないでください。イエスはすべての人に互いに愛し合いなさいと教えた良い人だと思っています。でも、イエスがなぜほかのすべての人の罪のために死ななければならなかったのかが理解できないのです。」

- 信仰をもって行動して疑問を解決してもらうために、あなたならどんな勧めをこの求道者にしますか。

求道者に永遠の視点から自分の疑問について考えてもらえるようにするにはどうしたらよいか生徒に分かってもらうために、以下の質問をします。

- このような疑問を持つようになったのは、この求道者がどんな考えや前提に立って物事を考えているからだと思いますか。

ホワイトボードの片側に、生徒の答えを書きます。以下のような答えが出るのでしょうか。

- イエス・キリストは、ほんとうは、神の聖なる御子ではない。
- ほかの人の代わりに苦しむのは公平ではない。神はすべての人を公平に扱われる。
- 人類は実際には墮落しておらず、迷ってもいない。
- 自分の罪の代価は自分で払うことができる。
- 自分の罪を洗い清められるのに救い主の手を借りる必要はない。
- 自分は、神のもとに帰れなくなるほど重大な罪は犯していない。

このような考えがあると、求道者はなぜイエス・キリストとその贖罪について疑問を感じるようになるのか、書き出された考え一つ一つについて生徒に説明してもらいます。

ホワイトボードに書かれた考えや前提が正しいかどうかを、救いの計画の知識と『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」で学んだ真理に照らし合わせて、考えるよう生徒に勧めます。

- この求道者の疑問に関連した福音の真理には、どんなものがあるでしょうか。

この質問に対して出た答えは、ホワイトボードのもう片方の側に書きます。以下のような答えが出されるでしょう。

- わたしたちは自分の犯した罪のために、迷い墮落した状態にある。
- わたしたちは自分の罪の代価を自分で払って洗い清められることはできない。そのため、自分の力で神のもとに帰って神とともに永遠に生きることはできない。
- イエス・キリストはほかの人が持ち得ない特質と特性を持っているため、ほかの人の罪の代価を払うことのできる唯一の御方である。
- 神はほんのわずかでも、罪を見過ごしにされることはない。

教義のテーマ3で学んだモルモン書マスター教義聖句を生徒に見直してもらい、ホワイトボードに書かれた真理の根拠となる聖句があるとしたらそれはどれか考えてもらいます。(例えば、アルマ34:9-10は、人は自分の犯した罪のために迷い墮落した状態にあり、イエス・キリストの贖罪がなかったならば滅びるほかないという真理の根拠となります。)生徒の答えを、ホワイトボードに書かれた真理の横に書きます。

この求道者に自分の疑問を永遠の視点から考えてもらうために使える聖句や教会指導者の言葉として、ほかにどんなものが思いつくか、生徒に聞きます。聖典や携帯機器で調べる時間を生徒に与えます。生徒が思いついた聖句や教えを、ホワイトボードに書かれたそのほかの聖句に書き加えてもよいでしょう。

生徒を二人一組に分け、イエス・キリストがわたしたちを救うためにわたしたちの罪のために苦しまなければならなかったことを信じているのはなぜかをこの求道者が理解できるように助ける方法を、パートナーと練習してもらいます。

十分に時間を取ってから、数人の生徒に、このような疑問を持った人を自分ならどう助けるかをクラス全体に説明してもらいます。

練習2 (20 - 25分)



霊的な知識を得ることに関連した原則(信仰をもって行動する、永遠の視点から概念や疑問について調べる、神が定められた情報源を通してさらに理解を深める)を復習した後で、以下の配付資料を各生徒に渡します。一人の生徒に、最初の段落を声に出して読んでもらってから5-10分間時間を取り、生徒たちに質問の答えを考えて書いてもらいます。



あなたは、イエス・キリストの贖罪について日曜学校のクラスで教えるよう頼まれました。そのクラスには、イエス・キリストの贖罪はたいいていの人にとっては偉大なことだと思うけれど自分がその祝福にあずかれる自信はないと、あなたに打ち明けてくれた友達が一人います。同じ罪を何度も犯していて、その罪を克服できるとは思えないのだそうです。

1. この日曜学校のクラスを教える割り当てを果たす際に、この友達が信仰をもって行動できるようにするために、あなたはどんなことをしますか。
2. 『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」で学んだ教義とモルモン書のマスター教義聖句を復習します。あなたは、その友達に、抱いている疑問を永遠の視点から考えてもらって、その友達も救い主の贖罪の助けにあずかれることを理解してもらために、どの教義と聖句を使いますか。
3. この若い男性の助けになるような聖句や教会指導者の言葉には、ほかにどんなものがあるでしょうか。(『リアホナ』の大会号や、冊子『若人の強さのために』、LDS.orgで見ることのできるそのほかの資料を調べるとよいでしょう。)



十分な時間を取った後で、生徒を3、4人のグループに分け、配付資料にある質問の答えを話し合ってもらいます。生徒たちが考えを出し合った後で、何人かの生徒を選んで話し合ったことを発表してもらってもよいでしょう。

マスター教義の復習

以下の活動は、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」に出てくるモルモン書の5つのマスター教義聖句を生徒に覚えてもらうことを目的としています。しかし、生徒たちが今年度学んだ他のマスター教義聖句も復習できるように、この活動を一部変更しても結構です。



以下の組み合わせ問題を各生徒に配り、重要な教義を一つ一つ、その根拠となるマスター教義聖句と結びつけてもらいます。十分な時間をとった後で、正解を教えます：(1) b；(2) d；(3) e；(4) c；(5) a



重要な教義	マスター教義聖句
___ 1. 贖罪の一環として、イエス・キリストはわたしたちの罪のために苦しめただけでなく、全人類の苦痛、誘惑、病気、弱さをその身に受けられました。	a. モーサヤ 3：19
___ 2. わたしたちはイエス・キリストによってのみ救われることができます。なぜなら、イエスは全人類のために無限にして永遠の贖罪を成し遂げることのできる唯一の御方だったからです。	b. アルマ 7：11－13
___ 3. 信仰をもって主のもとへ行くとき、救い主はわたしたちが重荷を背負い、自分では行うことのできないことを成し遂げられるように強めてくださるでしょう。	c. ヒラマン 5：12
___ 4. わたしたちの信仰が救いをもたらすのは、それがイエス・キリストに根差したものである場合に限りです。	d. アルマ 34：9－10
___ 5. 悔い改めは、思いと心の変化です。悔い改めには、罪から離れ、自分の思いと行動と望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることが含まれます。	e. エテル 12：27



実践練習

あなたは、イエス・キリストの贖罪について日曜学校のクラスで教えるよう頼まれました。そのクラスには、イエス・キリストの贖罪はたいいていの人にとっては偉大なことだと思うけれど自分がその祝福にあずかれる自信はないと、あなたに打ち明けてくれた友達が一人います。同じ罪を何度も犯していて、その罪を克服できるとは思えないのだそうです。

1. この日曜学校のクラスを教える割り当てを果たす際に、この友達が信仰をもって行動できるようにするために、あなたはどんなことをしますか。
2. 『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ3「イエス・キリストの贖罪」で学んだ教義とモルモン書のマスター教義聖句を復習します。あなたは、その友達に、抱いている疑問を永遠の視点から考えてもらって、その友達も救い主の贖罪の助けにあずかれることを理解してもらうために、どの教義と聖句を使いますか。
3. この若い男性の助けになるような聖句や教会指導者の言葉には、ほかにどんなものがあるでしょうか。（『リアホナ』の大会号や、冊子『若人の強さのために』、LDS.orgで見ることのできるそのほかの資料を調べるとよいでしょう。）



マスター教義の復習

重要な教義	マスター教義聖句
<p>___ 1. 贖罪の一環として、イエス・キリストはわたしたちの罪のために苦しめただけでなく、全人類の苦痛、誘惑、病気、弱さをその身に受けられました。</p> <p>___ 2. わたしたちはイエス・キリストによってのみ救われることができます。なぜなら、イエスは全人類のために無限にして永遠の贖罪を成し遂げることのできる唯一の御方だったからです。</p> <p>___ 3. 信仰をもって主のもとへ行くと、救い主はわたしたちが重荷を背負い、自分では行うことのできないことを成し遂げられるように強めてくださるでしょう。</p> <p>___ 4. わたしたちの信仰が救いをもたらすのは、それがイエス・キリストに根差したものである場合に限りです。</p> <p>___ 5. 悔い改めは、思いと心の変化です。悔い改めには、罪から離れ、自分の思いと行動と望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることが含まれます。</p>	<p>a. モーサヤ 3 : 19</p> <p>b. アルマ 7 : 11 – 13</p> <p>c. ヒラマン 5 : 12</p> <p>d. アルマ 34 : 9 – 10</p> <p>e. エテル 12 : 27</p>

マスター教義の復習

重要な教義	マスター教義聖句
<p>___ 1. 贖罪の一環として、イエス・キリストはわたしたちの罪のために苦しめただけでなく、全人類の苦痛、誘惑、病気、弱さをその身に受けられました。</p> <p>___ 2. わたしたちはイエス・キリストによってのみ救われることができます。なぜなら、イエスは全人類のために無限にして永遠の贖罪を成し遂げることのできる唯一の御方だったからです。</p> <p>___ 3. 信仰をもって主のもとへ行くと、救い主はわたしたちが重荷を背負い、自分では行うことのできないことを成し遂げられるように強めてくださるでしょう。</p> <p>___ 4. わたしたちの信仰が救いをもたらすのは、それがイエス・キリストに根差したものである場合に限りです。</p> <p>___ 5. 悔い改めは、思いと心の変化です。悔い改めには、罪から離れ、自分の思いと行動と望みを神に向け、自分の思いを神の御心と一致させることが含まれます。</p>	<p>a. モーサヤ 3 : 19</p> <p>b. アルマ 7 : 11 – 13</p> <p>c. ヒラマン 5 : 12</p> <p>d. アルマ 34 : 9 – 10</p> <p>e. エテル 12 : 27</p>



回復

注：次のマスター教義の活動は、数回のクラスを通じて行うことも、1回のクラスで行うこともできます。『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ4「回復」には、モルモン書のマスター教義聖句が挙げられていないので、これらの活動はテーマの総復習をする目的で行います。

教義を理解する（25分）

セグメント1（15分）

ホワイトボードに以下のテーマを書きます：神権時代、背教、回復。

生徒に、これらのテーマについて教会員ではない人に説明するよう求められたと想像してもらいます。何人かの生徒に、それぞれのテーマの意味を簡単に説明してもらいます。必要であれば、ほかの生徒に、これらの生徒の説明に付け足すことはないか尋ねることもできます。

 LDS.orgにアクセスし、ビデオ『神権時代：背教と回復のパターン』（6分48秒）を見せます。このビデオは、『マスター教義に関する基本文書の教義のテーマ4「回復」の「背教」と「神権時代」の項に書かれている内容が多く描かれています。すべてのビデオを一度に見せることも、時々一時停止をして、生徒に彼らが学んだことを説明してもらってもできます。

ビデオを見た後、生徒に『マスター教義に関する基本文書の教義のテーマ4の「背教」と「神権時代」の項に目を通してもらいます。（ビデオを見せることができない場合は、クラス全体でこれらの項を一緒に読むこともできます。）生徒に、これらのテーマをさらに理解する助けとなる語句や洞察を見つけてもらいます。各々の『マスター教義に関する基本文書』の冊子のこれらの語句に印を付けるよう生徒に勧めます。

- ホワイトボードに書かれた三つのテーマに関し、さらにどのような洞察を得ましたか。
- （生徒がビデオを視聴した場合）世界の歴史を通じてどのようなパターンが繰り返されていることに気づきましたか。水のたとえば背教や神権時代とどのように関連していると思いますか。
- 主の弟子の死後、世界から神権の権能と預言者による啓示が取り去られたことについて理解することは、なぜわたしたちにとって重要なのでしょうか。（このことについて理解すれば、末日に福音が回復される必要があったことが分かります。）
- 現代の神権時代について類まれな点は何でしょうか。

セグメント 2 (10 分)

最初の示現の絵（『福音の視覚資料集』〔2009年〕90番；LDS.orgも参照）を見せます。一人の生徒にその絵で何が起きているか説明してもらいます。

- この出来事により、今日の世界はどのように異なりますか。

『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ4「回復」の最初の3つの段落を何人かの生徒に順番に読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、ジョセフ・スミスの最初の示現に加えて、末日における主の福音の回復の主要な出来事を見つけてもらいます。

- 末日における福音の回復の一部として、ほかにどのような重要な出来事が起こりましたか。（生徒が答えるときに、次の絵を見せることもできます：金版を受け取るジョセフ・スミス〔LDS.orgを参照〕、アロン神権を受けるバプテスマのヨハネ〔『福音の視覚資料集』93番；LDS.orgも参照〕、メルキゼデク神権の回復〔『福音の視覚資料集』94番；LDS.orgも参照〕、教会の組織の一つ。）
- 地上に福音が回復されるに当たり、これらの出来事一つ一つはどのように不可欠だったのでしょうか。
- 教義のテーマ4「回復」の第2段落の最後の文に注目してください。モルモン書はどのように「ジョセフ・スミスが預言者として召されていたこと……の証」になっていますか。

数人の生徒に、これらの出来事から一つ選んで、それがどのように自分の人生に影響を与えたか説明してもらいます。これらの出来事について、あなたの証を分かち合うのもよいでしょう。



マスター教義の復習

このマスター教義の活動は、マスター教義聖句で教えられている教義の文を復習し、これらの聖句の参照先を覚える助けとなります。

はじめに、生徒がこれまで学習した中から、復習してほしいと思う10のマスター教義聖句を選びます。次に、それぞれの参照聖句を一枚の紙に一つずつ書きます。そして全員から見えるように、それらの紙を床に広げるか、壁に貼ります。

全員に、紙の周りに集まるように言います。それぞれのマスター教義聖句が教えている教義や原則を生徒に説明してもらいながら、参照先を一緒に復習します。

教師が鍵となる言葉（『マスター教義参照ガイド』に書かれている言葉を使う）を言ったらすぐに、クラス全体で正しい参照先が書かれた紙を指差すか触る、そして教師が別のマスター教義聖句の鍵となる言葉を言うことを説明します。全員で協力し、制限時間内（例えば90秒）にできるだけ多くの聖句を指差すか触るよう生徒に勧めることもできます。より良い得点を目指して、この活動を繰り返し行うこともできます。すべての生徒の参加を促すため、一人の生徒が触ることのできる数の上限を決めてもよいでしょう。

生徒がマスター教義聖句や教えられている教義を覚える助けとなるよう、この活動をまた別の日に繰り返し行ってもよいでしょう。



預言者と啓示

注：次のマスター教義の活動は、数回のクラスを通じて行うことも、1回のクラスで行うこともできます。『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ5「預言者と啓示」には、モルモン書のマスター教義聖句は挙げられていないので、これらの活動はテーマの総復習をする目的で行います。

教義を理解する（15分）



生徒に以下のクイズに答えてもらいます。生徒は個人、または少数のグループで答えることができます。



預言者と啓示

1. 正誤問題：預言者とは神に代わって語る人である。
2. 人はどのようにして預言者になりますか。
3. 正誤問題：預言者は皆イエス・キリストについて証するわけではない。
4. 啓示とは何ですか。
5. 正誤問題：イエス・キリストが亡くなり復活した後で、人はイエス・キリストの教会を組織した。
6. 正誤問題：教会の大管長は教会全体のために啓示を受けることのできる、地上で唯一の人である。
7. 大管長に加え、わたしたちはほかにだれを預言者、聖見者、啓示者として支持しますか。
8. 教会の標準聖典を構成する4つの聖典を挙げてください。
9. 啓示を受けることができるのはだれですか。
10. 正誤問題：主は、生ける預言者によって明らかにされた真理と相反する個人の啓示を人々にお与えになることがある。



生徒がクイズへの回答を終えたら、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ5「預言者と啓示」を参照しながら答えを確認するよう言います。クラス全体で問題を読み直し、答えを訂正することで、全員が教義を理解できるようにします。

預言者と啓示に関して質問がないか生徒に尋ねます。時間を要する質問がある場合、自分自身でさらに理解を深め、見つけたことを次回のレッスンで発表するよう勧められることもできます。

生徒に、末日聖徒イエス・キリスト教会が神の生ける預言者によって導かれていることを知るようになった経験を分かち合うよう勧めます。あなたの証も分かち合うといいでしょう。

マスター教義の復習

一人の生徒に、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老（1928 - 2015 年）の次の言葉を声に出して読んでもらいます：



「聖文を暗記することで、大きな力が得られます。聖文を暗記することは、新しい友情を築くことです。それはまるで、必要なときに助けてくれる人、靈感と慰めを与えてくれる人、必要な変化を遂げる動機を与えてくれる新しい人に出会うのに似ています。」（リチャード・G・スコット、「聖文の力」『リアホナ』2011年11月号、6）

- スコット長老によると、価値ある聖句を暗記する人にはどのような方法で力が与えられるのでしょうか。
- 暗記した聖句が助けとなったのはいつですか。

セミナーでは、聖典とともに学習する時間を要するため、暗記はクラス内では通常行わないことを説明します。しかしながら、生徒はクラスの時間外でマスター教義聖句を暗記するよう勧められています。

このコースでこれまで学習してきたマスター教義聖句の参照先をホワイトボードに書きます。必要であれば、『マスター教義参照ガイド』を参照してそれぞれの聖句を復習するように、もしくはクラス全体でそれぞれの聖句の内容と意味について話し合うよう勧めます。一人一人の生徒に、これらの聖句から一つ選んで暗記するよう勧めます。自分の選んだ聖句を紙やカードに書いてもらう時間を取り、暗記するまでこれらの聖句を持ち歩くよう励まします。暗記ツールとして「マスター教義アプリ」を活用するよう勧めることもできます。今後のレッスンで、生徒に暗記した聖句を暗唱してもらったり、これらの聖句がどのように助けとなったか分かち合ってもらう時間を取ることもできます。

預言者と啓示

預言者と啓示

1. 正誤問題：預言者とは神に代わって語る人である。
2. 人はどのようにして預言者になりますか。
3. 正誤問題：預言者は皆イエス・キリストについて証するわけではない。
4. 啓示とは何ですか。
5. 正誤問題：イエス・キリストが亡くなり復活した後で、人はイエス・キリストの教会を組織した。
6. 正誤問題：教会の大管長は教会全体のために啓示を受けることのできる、地上で唯一の人である。
7. 大管長に加え、わたしたちはほかにだれを預言者、聖見者、啓示者として支持しますか。
8. 教会の標準聖典を構成する 4 つの聖典を挙げてください。
9. 啓示を受けることができるのはだれですか。
10. 正誤問題：主は、生ける預言者によって明らかにされた真理と相反する個人の啓示を人々にお与えになることがある。



神権と神権の鍵

注：次のマスター教義の活動は、数回のクラスを通じて行うことも、1回のクラスで行うこともできます。『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ6「神権と神権の鍵」には、モルモン書に関するマスター教義聖句は挙げられていないので、これらの活動はテーマの総復習をする目的で行います。

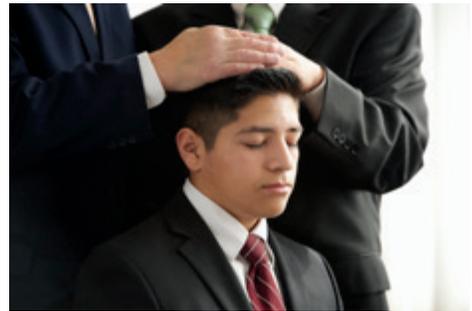
教義を理解する（20分）

セグメント1（10分）

神権に聖任される若い男性の写真を全員に見せます。

次の質問を見せるか、ホワイトボードに書きます：

- 神権とは何ですか。
- 神権の鍵とは何ですか。
- 神権の鍵はだれが持っていますか。
- アロン神権の権能とメルキゼデク神権の権能の違いは何でしょうか。



生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ6「神権と神権の鍵」を読み、これらの質問に対する答えとなる文を見つけてもらいます。見つけたことに印を付け、学んだことを覚える助けとなるメモを付け加えるよう勧めます。

十分に時間を取った後、生徒に、ホワイトボードに書かれた質問の答えとなる文を発表してもらいます。

- 神権と神権の鍵は、天の御父の計画にとってどのような点で不可欠なのでしょう。

セグメント2（10分）

鍵の束を持ち上げるか、ホワイトボードに鍵束の絵を描きます。必要であれば、神権と神権の鍵の違いについて簡単に生徒と復習します。

 2016年4月の総大会における、十二使徒定員会のゲーリー・E・スティーブソン長老の説教「神権の鍵と権能はどこにあるのでしょうか」のビデオを0分00秒から2分26秒まで見せます（LDS.orgにアクセスします）。ビデオを視聴することができない場合は、数人の生徒に以下のスティーブソン長老の説教を順番に声に出して読んでもらいます。生徒に、天の御父の子供たちにとってなぜ神権の鍵は重要なのかを見つける、または聞き取ってもらいます。





「家族とスキーゲレンデで過ごした楽しい1日は、厳しい寒さの訪れとともに終わりを迎えていました。わたしは車にたどり着くと、鍵を探そうとコートのポケットを探り、次々とほかのポケットにも手を入れました。鍵はどこにあるのでしょうか。皆が今か今かと鍵が出てくるのを待っています。車のバッテリーは充電されており、ヒーターも含め、あらゆるシステムが起動の合図を待っています。しかし、鍵がなくては、鍵のかかった扉に阻まれて車に入ることができません。鍵がなければ、エンジンも車に動力を送ることができません。

そのとき、全員の最大の関心事は、どうやって車に乗り込んで暖を取るかということでしたが、そんな状況にあるときでさえ、何か教訓を学べるかもしれない、とわたしは思っていました。鍵がなければ、このすばらしい技術の結晶も、単なるプラスチックと金属にすぎません。大きな能力があったとしても、鍵がなければ、本来の機能を発揮することはできないのです。

この経験について考えれば考えるほど、この経験がさらに自分にとって意義深いものになっていきました。わたしは、天の御父がその子らに対して抱いておられる愛に驚嘆しました。また、神がジョセフ・スミスに授けられた、永遠に関する壮大な示現と天からの訪れに深く感動しました。そして特に、神権の権能と神権の鍵の回復に対し、抑え切れない感謝の念で胸がいっぱいになりました。これらの回復がなければ、わたしたちは愛に満ちた天の両親のみもとに帰る旅をするのに必要な車から締め出されることでしょう。天の御父のみもとに戻る聖約の旅は、救いの儀式を滞りなく執行することで成り立っていますが、それは神権の鍵を通して適切に管理されなければなりません。」(ゲーリー・E・スティーブソン、「神権の鍵と権能はどこにあるのでしょうか」『リアホナ』2016年5月号、29)

- スティーブソン長老のたとえは、神権の鍵の重要性をより良く理解するうえでどのような助けとなりますか。
- 神権の鍵を持つ者の指示の下に執行されなければならない、救いにかかわる儀式すなわち救いの儀式にはどのようなものがありますか。(救いの儀式には、バプテスマ、確認、メルキゼデク神権への聖任〔男性の場合〕、神殿のエンダウメントや神殿の結び固め〔『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ7「儀式と聖約」を参照〕が含まれます。救いの儀式は、適切な鍵を持つ神権指導者によって承認されなければなりません。命名の儀式や墓の奉献、祝福師の祝福、聖餐の準備と祝福およびパスのためにも承認が必要となります。)
- あなた、もしくはあなたの知っているだれかが、神権の権能により、または神権の鍵を行使して祝福を受けたのはいつですか。

神権の権能と神権の鍵についてあなたの証を分かち合ってもよいでしょう。

マスター教義の復習

マスター教義クイズを作成します。ホワイトボードにマスター教義の参照先を幾つか挙げてから行ってもよいでしょう。口頭で、もしくは紙に書いて、生徒にヒントを与え、関連するマスター教義の参照先を書き出してもらいます。ヒントは、『マスター教義参照ガイド』に書かれた鍵となる言葉や、『マスター教義に関する基本文書』に書かれた教義の文を用いるとよいでしょう。または、特定のマスター教義聖句に当てはまる短いシナリオを作ってもよいでしょう。

生徒がクイズに答える前に、クラス全体でマスター教義聖句を復習するとよいでしょう。今後のレッスンで、生徒にクイズを再度受けてもらったり、違うバージョンのクイズを受けてもらうことで、生徒は聖句の場所を覚えることができます。

儀式と聖約

注：次のマスター教義の活動は、数回のクラスを通じて行うことも、1回のクラスで行うこともできます。

教義を理解する（40分）

セグメント1（10分）

ホワイトボードに儀式と書きます。

- イエス・キリストの福音の中で、儀式とはどのようなものでしょうか。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ7、「儀式と聖約」の「儀式」の項の最初の段落を読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、儀式とはどのようなものかを理解する助けとなる語句を見つけてもらいます。

- この段落のどの語句が、儀式とはどのようなものかを理解する助けとなるでしょうか。

生徒にホワイトボードのところに出てきてもらい、思いついた福音の儀式をすべて書き出してもらいます。生徒がすべて書き出した後、幾つかの儀式は救いの儀式と呼ばれていることを指摘します。

一人の生徒に、「儀式」の項の第2段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、救いの儀式とはどのようなものか、そしてなぜそれらが必要なかを理解する助けとなる語句を見つけてもらいます。生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の冊子にあるこれらの語句に印を付けるよう勧めます。

- 救いの儀式とはどのようなものか、そしてなぜそれらが必要なかを理解する助けとなる語句として、どのようなものが見つかりましたか。
- 救いの儀式が昇栄に不可欠であるとは、どういう意味でしょうか。（救いの儀式がなければ、わたしたちは天の御父のようになり、御父のみもとへ戻って永遠に暮らしたりすることはできないことを、生徒が確実に理解するようにしてください。）

一人の生徒にホワイトボードのところに出てきてもらい、挙げられている救いの儀式の横に星印を描いてもらいます。

一人の生徒に、「儀式」の項の最後の4つの段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、ホワイトボードのリストに含まれていない救いの儀式があればそれを見つけてもらいます。見つけたことを発表するように生徒に言います。必要があれば、ホワイトボードのリストに新たに見つけた救いの儀式を加えます。

ホワイトボードのリストを使って、生徒にまだ受けていない救いの儀式を挙げてもらい、発表したいと思う生徒に、なぜそれらの儀式を受けたいと望んでいるのかを説明してもらいます。（きわめて個人的なことについては分かち合わないよう生徒に注意します。）

福音の救いの儀式を受けたことによってもたらされた祝福について、あなたの証を分かち合うとよいでしょう。すべての救いの儀式を受けるために備えを続けるよう生徒に勧めます。

セグメント 2 (15 分)

次の文章を見せるか、声に出して読み、生徒にその文章が正しいか、あるいは誤っているかを考えてもらいます：バプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に確認されて初めて、聖霊の影響を経験することができる。

この文章が誤りであることをクラスの生徒たちが理解できるよう、一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 7、「儀式と聖約」の「儀式」の項の第 4 段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、聖霊の賜物と聖霊の影響力の違いを見つけてもらいます。

- この段落によると、聖霊の賜物と聖霊の影響力の違いは何でしょうか。

生徒に、先ほど学んだ段落の最初にある次の教義に印を付けるよう勧めます：**バプテスマを受けると、一人以上のメルキゼデク神権者により教会の会員に確認され、聖霊の賜物を授けられます。**確認の儀式は救いの儀式であるため、必要とされる神権の鍵を持つ者によって承認されなければならないことを指摘するとよいでしょう。

- この真理の根拠となるマスター教義聖句はどれですか。（3 ニーファイ 27：20。自分の聖典のこの聖句に、目立つ印を付けて、見つけやすくするよう生徒に勧めます。）

生徒が 3 ニーファイ 27：20 の背景を理解するのを助けるために、この聖句にはイエス・キリストが御自分の死と復活の後にアメリカ大陸にいる弟子たちを訪れ、教えを授けたときの御自身の言葉が含まれていることを説明します。

一人の生徒に、3 ニーファイ 27：20 を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けた人に対して救い主が約束されている祝福を見つけてもらいます。

- バプテスマを受け、聖霊の賜物を授かった人に対して救い主は何を約束されましたか。
- 聖められるとはどういう意味でしょうか。（生徒に、次の定義を聖典の 20 節の横に書くように勧めます：聖めとは「イエス・キリストの贖罪を通して、罪から解放された、純粹で、清く、聖なる状態となる過程」です〔『聖句ガイド』『聖め』の項、scriptures.lds.org〕。）

一人の生徒に、大管長会のヘンリー・B・アイリング管長の次の話を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、救い主の贖罪を通してわたしたちが聖められていること、あるいは罪から清められていることをどのようにして知ることができるかを見つけてもらいます。



「今日、聖霊の影響力を感じたら、自分の生活に贖罪の力が及んでいるという証拠だと考えてよいでしょう。聖霊を受けることにより、わたしたちはイエス・キリストの贖罪を通して清められます。」(Henry B. Eyring, "Gifts of the Spirit for Hard Times," Ensign, June 2007, 23)

- アイリング管長のこの言葉によると、イエス・キリストの贖罪を通してわたしたちが聖められていることをどのようにして知ることができますか。
- バプテスマを受けた後に聖霊の賜物を受け、それから生涯を通して常に御霊を伴侶とするよう努めることはなぜ大切だと思いますか。（御霊を伴侶とすることによって、わたしたちは生涯を通して聖めを受け続け、最終的に最後の裁きで主の御前に行き、「終わりの日に〔イエス・キリスト〕の前に染みのない状態で立つことができます〔3 ニーフアイ 27:20〕。）
- これまで話し合った真理に基づいて、聖霊の賜物を受けることがわたしたちの救いに不可欠な理由をどのように説明しますか。（この賜物を通して、わたしたちはイエス・キリストの贖罪を通してすべての罪から清められる力を受けます。これは、わたしたちが天の御父のように清くなり、御父と永遠に暮らすために不可欠なものです。）

次の質問をホワイトボードに書きます：

- あなたが聖霊の賜物について感謝しているのはなぜですか。
- この賜物はあなたの生活においてどのような祝福をもたらしてきましたか。

これらの質問に対する自分の答えをノート、または聖典学習帳に書くように言います。一人か二人の生徒に、書いた内容を分かち合ってもらいます。

セグメント 3 (10 分)

生徒を二人一組に分けます。それぞれの組に紙を一枚渡し、聖約の定義を書いてもらいます。一組か二組の生徒に、書いた定義を発表してもらいます。

『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 7、「儀式と聖約」の「聖約」の項の第 1 段落を、それぞれの組ごとに研究してもらいます。生徒に、自分たちが書いた聖約の定義に付け加えられる語句や考えを見つけてもらいます。

- 自分たちが書いた聖約の定義にどのような語句や考えを付け加えますか。それはなぜですか。

二人の生徒に、「聖約」の項の最後の二つの段落を順番に声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、聖約と福音の救いの儀式の関係を見つけてもらいます。

- 聖約と救いの儀式にはどのような関係があるのでしょうか。（生徒に、『マスター教義に関する基本文書』の冊子にある次の文章に印を付けるよう勧めます：**すべての神権の救いの儀式に聖約が伴います。例えば、わたしたちはバプテスマを通して主と聖約を交わします。**）
- マスター教義聖句の中で、この教義に関する文の根拠となるのはどの聖句でしょうか。（モーサヤ 18:8 – 10。この聖句に目立つ印を付けるよう生徒に勧めます。）

生徒がモーサヤ 18:8 – 10の背景を理解するのを助けるために、「モルモンでバプテスマを施すアルマ」の絵を見せ（『福音の視覚資料集』76番；LDS.orgも参照）、この絵の中で何が起きているかを生徒に説明してもらいます。アルマは預言者アビナダイの教えを聞いた後、悔い改め、主に従うことを選んだため、邪悪なノア王の僕から隠れていたことを生徒が理解できるように助けます。やがて、アルマが隠れていた場所の近くにあるモルモンの泉に多くの人がやって来て、アルマの教えを聞き、バプテスマを受けました。



一人の生徒に、モーサヤ 18:8 – 10を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、バプテスマの儀式を受けるときにわたしたちが交わす聖約について、アルマが何を教えたかを見つけてもらいます。

- この聖句によると、バプテスマを受けるとき、わたしたちは何をすると聖約あるいは約束しますか。

生徒に、モーサヤ 18:8 – 10では、すべての神権の救いの儀式には聖約が伴うという教義の例が示されていることを伝えます。

- 救いの儀式の受けるときはいつでも、主との聖約を交わすことになることを知るのにはなぜ重要なのでしょう。

セグメント 4 (5分)

モーサヤ 18:8 – 10をクラス全体で声に出して読みます。生徒に、バプテスマの聖約を交わし、守るときに主が約束してくださっていることを見つけてもらいます。

- 9 – 10節によると、バプテスマの聖約を交わし、守るときに主が約束してくださっていることは何でしょうか。

一人の生徒に、次の文章を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、バプテスマの聖約の中で約束されている祝福を受けるために、聖餐の儀式がどのような助けとなるかに注意して聞くようにいいます。

「聖餐を受けるときに、わたしたちは神の御子を記念する自分たちの行為がこの神聖な儀式の行われる短い時間を超えて続くことを神に証明します。この儀式には、主をいつも覚えていることと、進んで御子の御名を受けて御子の戒めを守ることを証明することが含まれます。聖餐を取り、これらのことを決意するときに、教会員はバプテスマのときに交わした聖約を更新するのです（モーサヤ 18:8 – 10；教義と聖約 20:37参照）。

すると、祝福として、主は約束された罪の赦しを更新し、教会員が『いつも御子の御霊を受けられるように』して下さいます（教義と聖約 20:77）。いつも御霊を受けられるということは、現世で得られる最大の賜物の一つです。』（『福音のテーマ』、「聖餐」の項 [lds.org/topics](https://www.lds.org/topics)）。

- 毎週ふさわしい状態で聖餐を受けることは、自分にどのような影響を与えるのでしょうか。
- 聖霊を常に伴侶とすることによって、どのような祝福がもたらされるのでしょうか。
- 聖餐を通して受けられる祝福を理解することによって、聖餐の儀式に対する感謝の気持ちはどのように深まるのでしょうか。

生徒に、次の日曜日、より深い敬虔さと感謝の気持ちをもって聖餐を受けるために何ができるかを考えてもらいます。そして目標を書き留め、実行してもらいます。

実践練習 (30 分)

『マスター教義に関する基本文書』の中の「霊的な知識を得る」の項に記載されている、以下の3つの原則を、生徒と一緒に復習してください：「信仰をもって行動する」「永遠の視点から概念や疑問について調べる」「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」

一人の生徒に、以下のシナリオを声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聞きながら、ある若い女性がなぜ友達のことを心配しているかを考えてもらいます。

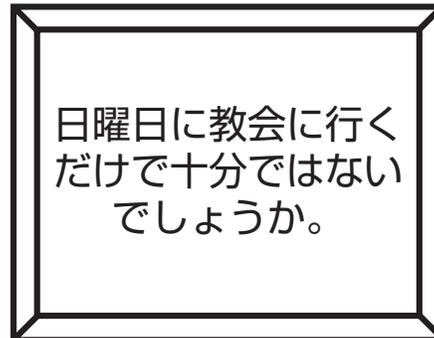
ケイトとジェイミーは同じワードにいます。お互いのことは初等協会のころから知っていて、これまでずっと仲良くしてきました。最近、ケイトはジェイミーのことについて心配しています。ケイトは、ジェイミーが教会の集会にほとんどいつも出席してはいるものの、ほかの人のしていることに合わせるために学校や、そのほかの場面で自分の標準を下げ始めていることに気づきました。例えば、ジェイミーはあまり慎重でない服装をするようになり、不適切な言葉を使い始めました。友達のことが気になったケイトは、心配していることをジェイミーに伝えました。ジェイミーはこのように答えました。「わたしはすごく霊的な人ではないかもしれないけど、日曜日には教会に行っているわ。それで十分じゃない?」

ホワイトボードに次の質問を書きます：
日曜日に教会に行くだけで十分ではないでしょうか。
質問の周りに簡単な額縁を描き、そこに「限られた視点」と書きます。

- 福音に対するどのような考えや誤解によって、ジェイミーはこのような質問をしたのでしょうか。

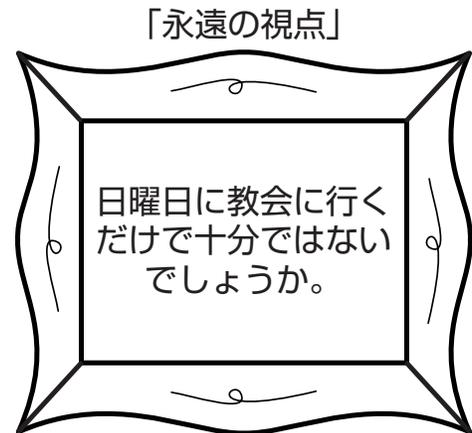
「限られた視点」という言葉を消します。
質問の周りにより美しい額縁を描き、そこに「永遠の視点」と書きます。

「限られた視点」



永遠の視点から概念や疑問について調べるには、わたしたちはそれらを、救いの計画や救い主の教えに照らして検討する、ということを生徒に伝えます。

生徒に少し時間を与えて、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ7、「儀式と聖約」と、この教義のテーマに関連したモルモン書のマスター教義聖句を復習してもらいます（モーサヤ18:8-10; 3ニーファイ27:20）。生徒に、ジェイミーの質問について永遠の視点から調べる助けとなる福音の真理を見つけてもらいます。



十分な時間を取った後で、生徒が見つけたことを発表してもらいます。質問の書かれた額縁の周りに答えを書いてもらいます。生徒が答えを発表するときに、その真理がジェイミーの質問について永遠の視点から調べるうえで、どのような助けとなるかを説明してもらいます。

- 儀式と聖約が日曜日に限らず、わたしたちの選択や行動に常にどのような影響を与えているかをジェイミーがよりよく理解する助けとして、マスター教義聖句のほかに、神が定められた情報源としてどのようなものがあるでしょうか。
- 自分がケイトの立場だったら、これまで話し合った真理をジェイミーが理解するのをどのように助けますか。
- 聖約を忠実に守る人に約束されている祝福を受けるために、ジェイミーが信仰をもって行動するようどのように励ましますか。

二人の女性の生徒に前に来てもらい、ケイトとジェイミーの役をロールプレイしてもらってもよいでしょう。ケイト役の生徒に、ジェイミーの質問に答えるときに実践練習で学んだことを当てはめてもらいます。

役を演じてくれた生徒に感謝を伝えます。儀式と聖約の教義を理解することは、日々の選択において導きとなり、天の御父がわたしたちに与えることを望んでおられるすべての祝福を受けるために何を行うべきかを知る助けとなることについて、あなたの証を述べます。

マスター教義の復習

次の活動は、生徒が教義の鍵となる文章を復習し、それらの真理の根拠となるマスター教義聖句を暗記し、それらの真理が日々の選択に応用できることを理解する助けとなります：

このコースで生徒がこれまでに学んだモルモン書のマスター教義聖句の参照先を一つ一つホワイトボードに列挙します。生徒を2、3人のグループに分け、ホワイトボードに書かれた参照聖句の一つまたは複数の聖句を各グループに割り当てます。各グループに割り当てられた聖句が根拠となっている『マスター教義に関する基本文書』の原則や教義を復習してもらいます。

次に、各グループに割り当てられたマスター教義聖句を当てはめることのできる状況についてのシナリオまたは説明を、それぞれ一枚の紙に書いてもらいます。

十分な時間を取った後、各グループが書いたシナリオを集めます。一つのシナリオを声を出して読んで、生徒にそのシナリオに応用すると役に立つマスター教義聖句を見つけたら手を挙げてもらいます。そのマスター教義聖句で教えられている真理を、そのシナリオにどのように応用できるかについて、生徒に説明してもらいます。別のシナリオを声を出して読んで、この活動を繰り返します。これから一週間、レッスンの最初または最後に、シナリオを幾つか提示してもよいでしょう。

結婚と家族

注：次のマスター教義の活動は、数回のクラスを通じて行うことも、1回のクラスで行うこともできます。

教義を理解する（20分）

セグメント1（10分）

クラスに自転車の車輪の実物を持ってくるか、または、写真を見せます。（この活動を適宜応用して、正しく機能するために、中心が要となる何かほかの物をクラスに持って来ててもよいでしょう。）

- 車輪の中心には何があるでしょうか。（ハブと呼ばれる部品で、車軸とベアリング、そして通常は車輪のスポークを固定するハブ体でできています。）
- ハブを外すと、車輪はどうなるでしょうか。（バラバラになってしまい、車輪の用を成さなくなる。）



生徒たちに、『マスター教義に関する基本本文書』の教義のテーマ8「結婚と家族」を開いてもらいます。最初の段落を、一人の生徒に読んでもらいます。ほかの生徒たちには、天の御父の救いの計画とわたしたちの幸福にとって中心をなすものは何だと書いてあるか、文を目で追いながら考えてもらいます。

- 神の救いの計画とわたしたちの幸福の中心は何でしょうか。
- なぜ結婚と家族が天の御父の救いの計画とわたしたちの幸福の中心、つまり不可欠なものなのだと思いますか。

生徒を二人一組か、少数のグループに分けます。教義のテーマ8「結婚と家族」の残りの3段落を声に出して読んでもらいます。生徒たちに、神の計画における結婚と家族の目的を果たすための助けとなるように神が与えてくださった戒めや責任は何だと書いてあるか考えるように言います。

- 神の計画で結婚と家族の目的が達せられるようにするために、神はどのような戒めと責任を与えてくだっているでしょうか。（生徒からは様々な答えが出るでしょう。次の教義が出ない場合は、指摘してください：**生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。**冊子『マスター教義に関する基本本文書』でこの真理に印を付けたらどうかと生徒に言います。

「生殖の神聖な力」とは、神が与えてくださった、子供をもうける能力であることを説明します。この神聖な力を守るために、神はわたしたちが異性と法律に基づいて結婚するまで、いかなる性的な行為も避けるよう命じられました。これは純潔の律法と呼ばれています。

- 純潔の律法に従うことは、天の御父がその子供たちのために作られた計画を達成するうえでどのような助けとなるでしょうか。

セグメント 2 (10 分)

ホワイトボードに以下の教義を書きます：生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚して夫婦となった男女の間においてのみ用いるべきである。

生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 8「結婚と家族」を開いてもらい、次の質問をします：

- この教義の根拠となるモルモン書のマスター教義聖句はどれでしょうか。(アルマ 39：9。自分の聖典のこの聖句に、目立つ印を付けて、見つけやすくするよう生徒に勧めます。)

この聖句の背景を生徒たちが理解できるように、これはアルマが、宣教師として奉仕しながらその「務めを放棄して、……娼婦イザベルを追って行った」息子のコリアントンに話をしている場面だということを説明します。(アルマ 39：3) 娼婦とは、不道德な行いをする女性または売春婦のことです。コリアントンへのアルマの言葉から、彼が純潔の律法を破ったことが分かります。

アルマ 39：9を一人の生徒に読んでもらいます。ほかの生徒には、アルマが息子にどのような勧告を与えたと書いてあるか、この聖句を目で追いながら考えるように言います。

- アルマは息子コリアントンに何をどのように勧告しましたか。
- 「自分の目の欲を追うことなく」とはどういう意味だと思いますか。

ここでの「欲」(情欲)は不適切な望みを意味していることを説明します。アルマの「自分の目の欲を追うことなく」という勧告は、特に現代に当てはまります。ポルノグラフィに類する画像や娯楽は、いかなるものでも避けるように努める必要があります。「ポルノグラフィとは、どのようなものであれ、性的な感情をあおるような形で人間の肉体や性的な行為を描写、あるいは表現しているものを指します。」(『真理を守る —— 福音の参考資料』179)

- アルマ 39：9にある「断つ」とはどんな意味でしょうか。(生徒に、アルマ 39：9の英語版には「脚注 b」があり、そこには自制心を養うという意味だと書かれていることを言及します。) モロナイも「神の御心に添わないものをすべて拒みなさい」という似たような勧告を与えており(モロナイ 10：32)、それは、神の御霊にそぐわないものはすべて避けるべきだという意味だと説明するとよいでしょう。)

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を、一人の生徒に読んでもらいます。ほかの生徒たちには、純潔の律法を守るために自制心をどう働かせることができると言っているか、聞き取ってもらいます。



「コンピューターにフィルターをかけたり、不適切なものへの愛着心に鍵をかけたりするときと同様、人生を実際にコントロールできるのは、自分自身しかいないということを心に留めてください。これに加えて、皆さんの目の前にある境界線上の事柄を、もっとコントロールできるように努めてください。テレビ番組が下品なものだったら、テレビを消してください。映画が粗野なものだったら、映画館から出てください。もし不適切な関係に発展しそうなら、そのような関係は断ち切ってください。こうした影響力の多くは、少なくとも始めは、表面的には害悪とならないかもしれませんが、しかし、霊性を鈍くします。そして、本物の悪へと導いていくのです。『千里の道も一歩から』という古いことわざがあります。自分の足もとに注意してください。」(ジェフリー・R・ホランド「わたしの敵に場所を与えてはならない」『リアホナ』2010年5月号, 45)

- このホランド長老の勧告は、自制心を働かせて純潔の律法を守ろうと努力するうえでどのような助けとなるでしょうか。

純潔の律法を守るために自制心を働かせることがいかに大切かを伝える証を、教師がするとよいでしょう。純潔の律法を守ろうと努力するときに、主がわたしたちを祝福してくださり、性的な罪を犯したとしても信仰をもって主に頼り、悔い改めるときに赦してくださるということを伝えてください。

自制心を働かせて純潔の律法を守り、性的な清さを保てるように生徒たちを励ましてください。

実践練習 (25分)

『マスター教義に関する基本文書』の中の「霊的な知識を得る」の項に記載されている、以下の3つの原則を、生徒と一緒に復習してください：「信仰をもって行動する」「永遠の視点から概念や疑問について調べる」「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」



クラスを2人または3人のグループに分けます。次の配付資料をそれぞれのグループに配り、そこに書かれた活動を行ってもらいます。(注：必要であれば、生徒たちの経験や必要に合わせてシナリオを修正したり、登場人物を日本的な名前に置き換えたりしてもよいでしょう。)



1. 次のシナリオを声に出して読んで、自分だったらどう対応するか考えてください：

パーカーが生物の授業で、教室の後ろの方に座って先生が来るのを待っていると、友人のジェフが携帯電話を周りの生徒たちに見せていました。パーカーはジェフが何を見せているのか気になりました。「何か面白いものに違いない」と思ったのです。そのうちにジェフは、パーカーの所に来て携帯を見せてくれました。それで初めて分かったのですが、ジェフと周りの生徒たちが見ていたのはポルノグラフィだったのです。「見てみるよ」とジェフは言います。「友達が今、送ってきたんだ。」

2. 次の質問についてグループで話し合います：
 - そのとき、パーカーは信仰をもってどんな行動ができるでしょうか。
 - そうするのが難しいのはなぜでしょうか。
3. 続いて二つ目のシナリオを声に出して読んでください。

パーカーはジェフの携帯からすぐに目をそらし、その画像を見たくないことを、はっきりと態度で示します。ジェフは、「どうしたんだよ」と言います。ちょうどそのとき、生物の先生が教室に入ってきます。ジェフは携帯をしまい、そそくさと自分の席に戻ります。

授業が始まってからも、パーカーは今起こったことについて考えています。目をそらしてポルノグラフィを見ないようにしたのは、正しいことだったと感じています。両親や教会の指導者から、そうするよう教えられてきました。しかし、時間がたつにつれ、ほかの多くの生徒たちが何の問題もなくポルノグラフィを見ているのはなぜなのか、疑問に感じ始めました。パーカーの心に、こんな疑問が湧いてきました：ポルノグラフィを見るのがどうしていけないのだろうか。見ている人はほかにもたくさんいるけれど、それで悩んでいるわけでも、生活に支障をきたしているわけでもなさそうだ。



生徒たちがシナリオを読み終えたら、次の二つの見出しをホワイトボードに書きます：「世間一般の常識や思い込み」と「永遠の真理」

- ポルノグラフィーを見るのがどうしていけないのかと言う人がいた場合、その人にはどのような世間一般の常識や思い込みがあると言えるでしょうか。（生徒たちの答えを「世間一般の常識や思い込み」の見出しの下に書いてください。ポルノグラフィーは普通の娯楽で、刺激的だけれども害はないと考えている人たちがいるという意見が、生徒から出るかもしれません。

生徒たちが、永遠の観点からパーカーの疑問を分析できるように、次のような質問をして、生徒たちから出た答えを「永遠の真理」という見出しの下に書き出してください：

- ポルノグラフィーを避けるべき理由を理解するのに役立つのは、救いの計画、結婚と家族に関するどんな真理や神の戒めでしょうか。（生徒たちは『マスター教義に関する基本文書』にある次の真理を挙げるかもしれません：わたしたちの永遠の進歩は、この賜物をどのように使うかにかかっています（教義のテーマ2「救いの計画」参照）。わたしたちの体は神聖であり、天の御父からの贈り物として尊ばなければなりません（教義のテーマ2「救いの計画」の「死すべき生涯」の項参照）。男女間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の救いの計画とわたしたちの幸福の中心を成すものです（教義のテーマ8「結婚と家族」参照）。戒めとは、わたしたちが進歩し神のようになる助けとして神から与えられた律法であり要件です（教義のテーマ9「戒め」参照）。
- これらの真理は、天の御父がポルノグラフィーを見ないようにわたしたちに命じられている理由を理解するためにどう役立つでしょうか。（具体的に分かるように、ポルノグラフィーが天の御父との関係や結婚生活、家族にとってどんな点で害になるのか、生徒に説明してもらってもよいでしょう。）
- 神から与えられた情報源の中で、天の御父がどうしてわたしたちにポルノグラフィーを見ないように命じておられるのか理解する助けとなるものは何でしょうか。

神から与えられた情報源の一つを研究する機会を生徒に与えるために、小冊子『若人の強さのために』を一人一人に配ってください。何人かの生徒に、「娯楽とメディア」の項を交替で読んでもらいます。ほかの生徒たちには、天の御父がどうしてわたしたちにポルノグラフィーを見ないように命じておられるのかを、さらに理解する助けとなる勧告はどれか、文を目で追いながら考えてもらいます。見つけたことを発表するように生徒に言い、答えをホワイトボードに書きます。

何人かの生徒に、ポルノグラフィーを見ないようにすることがなぜそれほど大切なのかを自分の言葉でまとめてもらいます。

最後に、このレッスンで話し合った真理について、教師が証を述べます。生徒たちに、もしポルノグラフィーにかかわっているのであれば、ビショップまたは支部会長に相談して、助けを求めるよう生徒に伝えます。

マスター教義の復習

この復習の活動は、生徒たちが学んだマスター教義聖句や教義の鍵となる言葉を使って、質問に答える練習をする機会となります。レッスンの前に、このコースでこれまで学んできた聖句の数に応じて、求道者から聞かれそうな質問で、マスター教義聖句を使って答えられるものをカードに書いて用意しておきます。例えば、「あなたの教会の会員はイエス・キリストについて何を信じているの?」または「あなたの教会は会員でない人たちを差別していると聞きました。ほんとうですか?」というような質問です。

生徒たちに、『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」の項を開いてもらいます。「霊的な知識を得る」の項にある、人々の真理の探究を助ける4つの方法を生徒たちと復習します。

生徒たちを宣教師の同僚のように二人組に分けて、各組に前に出て質問に答えてもらいます。数人の生徒たちに求道者の家族の役をもらい、カードにある質問を「宣教師たち」に尋ねてもらいます。宣教師役の二人には、霊的な知識を得られるよう助ける方法を用い、聖典を駆使して答えてもらいます。ほかの生徒には、求道者の質問に対する答え方として良かった点を挙げてもらいます。

これを何組かの「同僚の組」にやってもらい、知識や技術を用いて、疑問を自分で解決できるよう助ける練習をもらいます。

実践練習

1. 次のシナリオを声に出して読んで、自分だったらどう対応するか考えてください：

パーカーが生物の授業で、教室の後ろの方に座って先生が来るのを待っていると、友人のジェフが携帯電話を周りの生徒たちに見せていました。パーカーはジェフが何を見せているのか気になりました。「何か面白いものに違いない」と思ったのです。そのうちにジェフは、パーカーの所に来て携帯を見せてくれました。それで初めて分かったのですが、ジェフと周りの生徒たちが見ていたのはポルノグラフィーだったのです。「見てみるよ」とジェフは言います。「友達が今、送ってきたんだ。」

2. 次の質問についてグループで話し合います：

- そのとき、パーカーは信仰をもってどんな行動ができるでしょうか。
- そうするのが難しいのはなぜでしょうか。

3. 続いて二つ目のシナリオを声に出して読んでください。

パーカーはジェフの携帯からすぐに目をそらし、その画像を見たくないことを、はっきりと態度で示します。ジェフは、「どうしたんだよ」と言います。ちょうどそのとき、生物の先生が教室に入ってきます。ジェフは携帯をしまい、そそくさと自分の席に戻ります。

授業が始まってからも、パーカーは今起こったことについて考えています。目をそらしてポルノグラフィーを見ないようにしたのは、正しいことだったと感じています。両親や教会の指導者から、そうするよう教えられてきました。しかし、時間がたつにつれ、ほかの多くの生徒たちが何の問題もなくポルノグラフィーを見ているのはなぜなのか、疑問に感じ始めました。パーカーの心に、こんな疑問が湧いてきました：ポルノグラフィーを見るのがどうしていけないのだろうか。見ている人はほかにもたくさんいるけれど、それで悩んでいるわけでも、生活に支障をきたしているわけでもなさそうだ。



戒め

注：次のマスター教義の活動は、数回のクラスを通じて行うことも、1回のクラスで行うこともできます。

教義を理解する（80分）

セグメント1（5分）

ホワイトボードに「戒め」と書きます。

- 末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちは、どうすれば天の御父から授かった戒めに対して世の人々と異なる見方をすることができるようになるでしょうか。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』から教義のテーマ9「戒め」の項の第1段落を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、その段落を目で追いながら、神の戒めについてすべての人に理解してほしいと思う事柄について述べた言葉を探すように言います。

- 神の戒めについて、あなたはすべての人にどのような言葉を理解してほしいでしょうか。（この質問に答えるとき、その言葉をすべての人が理解することがなぜ大切だと思うのか、説明してもらいます。

自分の『マスター教義に関する基本文書』にある以下の教義に印を付けてもらいます：**戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすことができます。**

戒めは天の御父の幸福の計画の重要な要素であること、また神の戒めを守る人は主からのすばらしい幸福と祝福にあずかることを証します。

セグメント2（15分）

ホワイトボードに次の教義を書きます：戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすことができます。

生徒に『マスター教義に関する基本文書』から教義のテーマ9「戒め」の項を開くように言い、次の質問をします：

- この教義の根拠となるマスター教義聖句はどれでしょうか。（モーサヤ2：41およびアルマ41：10。）

生徒にモーサヤ2：41を開き、このマスター教義聖句に目立つ印を付けて、見つけやすくするよう勧めます。生徒がこの聖句の背景を理解できるよう、ここには死期が近づき民に語りかけたベニヤミン王の言葉が記されていることを説明します。

一人の生徒に、モーサヤ2：41を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、その聖句を目で追いながら、戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすことができるという真理の根拠となる言葉や語句を探すように言います。

- 「戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすことができる」という真理の根拠となる、どのような言葉や語句を見つけましたか。
- 「物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける」とはどういう意味でしょうか（モーサヤ2：41）。（物質的という言葉はこの地上における生活の一時的かつ物質的な面を指します。このことを理解できるよう生徒を助けます。

霊的という言葉は、天の御父の霊の子供としてわたしたちが遂げる永遠の進歩を指します。)

- あなたが受けたことのある物質的な祝福の例を幾つか挙げてください。あなたはこれまでにどのような霊的な祝福を受けたことがありますか。

神の戒めに従っても、困難、悲しみ、試しを避けられるわけではないということを指摘します。イエス・キリストですら、天の御父の戒めに一つ残らず完全に従ったにもかかわらず、困難、悲しみ、試しを受けました。

- 困難や試しに直面していても、神の戒めに従うことで、どのように幸福や祝福を経験することができるでしょうか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン会長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、マッコンキー長老が幸福と喜びについて教えたことに耳を傾けるように言います。



「聖徒とは、あらゆる状況において幸せでいられる人々なのです。ひどい一日や一週間、散々な一年を過ごしながらも、わたしたちは喜びを感じられます。

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちを感じる幸せは、生活の状況ではなく、生活の中で何に目を向けるかにかかっているのです。

生活の中心を神の救いの計画とイエス・キリスト、主の福音に向けるなら、人生で何が起ころうとも、起ころなくても、喜びを感じることができます。……

では、どうしたらその喜びを得られるのでしょうか。まず、『あらゆる思いの中で』、〔ヘブル 12：12〕『信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見』ることから始められます〔教義と聖約 6：36〕。祈りの中で常に感謝を表し、主と天の御父と交わした聖約を守ることができます。わたしたちが救い主をより身近に感じるにつれ、また主の喜びが与えられるよう切に願い求める中で、わたしたちを感じる喜びは増すことでしょう。

「喜びには力があり、喜びに目を向けるなら、生活に神の力を取り入れることができます。」(ラッセル・M・ネルソン「喜び ― 霊的に生き抜く道」『リアホナ』2016年11月号, 82)

- あなた(またはあなたの知人)が困難な時期であっても、神の戒めを守ることで祝福と幸福にあずかった経験について一つ紹介してください。

セグメント 3 (10分)

モーサヤ 2：41が、戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすという教義の根拠となるマスター教義聖句の一つであることを伝えます。クラス全員でモーサヤ 2：41を声に出して読み、復習します。

アルマ 41：10は、「戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらす」という教義を理解するのに役立つもう一つのマスター教義聖句であることを指摘します。参照聖句として、自分の聖典のモーサヤ 2：41の隣にアルマ 41：10と書くよう生徒に勧めます。それからアルマ 41：10を開き、この聖句に目立つ印を付けて、見つけやすくするよう勧めます。

生徒がアルマ 41：10の内容を理解できるように、この聖句には宣教師として奉仕していたときに純潔の律法を破ってしまった息子コリアントンにアルマが語った言葉が含まれていることを説明します。

一人の生徒に、アルマ 41：10を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、悪事についてアルマが息子に教えた事柄を見つけてもらいます。

- アルマはコリアントンに悪事についてどんなことを教えただろうか。
- 「悪事は決して幸福を生じたことがない」(アルマ 41:10) のはなぜだと思いますか。
- 神の戒めに従わない人が幸福そうに見えるとき、「悪事は決して幸福を生じたことがない」(アルマ 41:10) という原則はどのように当てはまるでしょうか。

一人の生徒に、ラッセル・M・ネルソン会長の次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、ネルソン会長が礼拝について教えたことに耳を傾けてもらいます。



「不義な人々は多くの感情や感覚を味わうでしょうが、喜びを経験することは決してないのです。喜びは、忠実な者に与えられる賜物です。それは、イエス・キリストが教えられたとおりに、意識的に義にかなった生活を送ろうとすることで得られる賜物なのです。」(ラッセル・M・ネルソン「喜び——霊的に生き抜く道」, 84)

- 福音に従った生活を送ることで経験する喜びは、人々が神の戒めに従わないときに経験する感情や感覚とどのように異なると思いますか。

悪事は決して幸福を生じたことがないという証を分かち合います。参照聖句として、自分の聖典のアルマ 41:10の隣にモーサヤ 2:41と書くよう生徒に勧めます。

セグメント 4 (10 分)

ホワイトボードに次の教義を書きます：戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすことができます。

ホワイトボードに書かれた教義の常という言葉丸で囲み、自分の『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ 9「戒め」の項の第 1 段落の該当箇所も丸で囲むよう生徒に勧めます。

戒めに従順であることに対する祝福は、即座に与えられることもあれば、すぐには与えられず、与えられるまで長い間一貫して従順でなければならないこともあります。

- 神が約束された祝福を即座に与えられないこともあるということを理解するのが大切なのはなぜだと思いますか。

一人の生徒に、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、クック長老が従順の祝福について教えたことに耳を傾けてもらいます。



「わたしたちの限られた物の見方では、目の前の誘惑や娯楽は、魅力的に見えるかもしれませんが。その反面、誘惑に立ち向かったことで得られる報いは、高嶺の花で自分のものにできないと感じられるかもしれません。しかし、御父の計画を真に理解すれば、義にかなった生活による報いは、今すぐにでも手に入れることができるのです。」(クエンティン・L・クック「プリストルの船のように—— 順風でも逆風でも、神殿にふさわしく」『リアホナ』2015年11月号, 40)

- 神の戒めに従うときにすぐ経験できる祝福にはどのようなものがあると思いますか。(こうした祝福の中には、聖霊がともにあること、主を身近に感じること、神の導きを体験すること、平安、健康、誘惑からの守り、身体的危害からの守り、個人的な成長、幸福、そして喜びなどが含まれる。)

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が述べた次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「祝福はすぐに来ることも、あとから来ることも、また天に召されるまで来ないこともあります。イエス・キリストの福音を頂く人には必ず来ます。そのことを証します。」(ジェフリー・R・ホランド「すでに現れた祝福の大祭司」『リアホナ』2000年1月号, 45)

戒めを守ることは、主から幸福と祝福を常にもたらすことができるという証を分かち合います。こうした祝福の中には、すぐには与えられないものもあります。あとから来る祝福もありますが、必ず来ます。

セグメント5 (10分)

生徒に、戒め、標準、預言者や使徒からの勧告に従うのが難しいと感じたときの経験について考えてもらいます。(生徒に考えを分かち合ってもらうことはしません。)

1 ニーファイ3:7は、戒めに従うのが難しいと感じたときに助けとなるマスター教義聖約であるということを説明します。(1 ニーファイ3:7に目立つ印を付けて、見つけやすくするよう生徒に勧めます。)

この聖句の背景を理解できるよう、主はリーハイに息子たちをエルサレムに送り返し、ラバンから真鍮の版を取り戻すよう命じられたということを説明します。ニーファイの兄たちは、任務が難しいためにつぶやきましたが、ニーファイの答えには信仰が表れていました。

一人の生徒に、1 ニーファイ3:7を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、その聖句を目で追いながら、つぶやくことなく主に従うために必要な信仰を与えてくれる戒めについてニーファイが何を理解していたか見つけてもらいます。

- ニーファイは神の戒めについてどのようなことを教えているでしょうか。(生徒が答えた後で、自分の『マスター教義に関する基本文書』の教義のテーマ9「戒め」の項の第1段落にある以下の教義に印を付けるように勧めます：**神は戒めを与えると同時に、それに従う手段も備えてくださいました。**)

生徒にニーファイと兄たちが真鍮の版を手に入れるために行った3つの試みを要約してもらいます。(必要に応じて、真鍮の版を手に入れるための行った最初の二つの試みは失敗に終わったことを伝えます。3番目の試みにおいて、ニーファイは御霊に導かれ、主はニーファイが真鍮の版を手に入れることができるよう手段を備えてくださいました。)

- 1ニーファイ3:7で教えられている真理に関するニーファイの理解は、真鍮の版を手に入れるための最初の二つの試みが失敗に終わった後でも、その努力を継続し続けるうえで、どのような助けとなったと思いますか。
- この真理を理解することは、今日のわたしたちにとってどのような助けとなるでしょうか。

主の戒めの一つについて、わたしたちがそれに従えるよう主がどのような手段を備えられているか、生徒に考えるよう勧めます。何人かの生徒に、彼らの経験を分かち合ってもらおうとよいでしょう。

わたしたちが主に与えられたすべての戒めを守ることができるよう、主は手段を備えられることを証します。

セグメント6(10分)

次の質問をホワイトボードに書きます：二つのいちばん大切な(または最も基本的で重要な)戒めは何だと思いますか。それはなぜでしょうか。

生徒を二人一組に分け、これらの質問の答えについて話し合うように言います。それが終わったら、何人かの生徒にその答えを報告してもらいます。

一人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』から教義のテーマ9「戒め」の項の第2段落を読んでもらいます。その生徒が読む前に、この段落にはマタイ22:36-39に記されているイエス・キリストの言葉が引用されていることを説明します。そこでイエスは二つのいちばん大切な戒め、または最も基本的で重要な戒めは何であるかを宣言しています。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、二つの「いちばん大切な」戒めを見つけるように言います。

- 二つのいちばん大切な戒めとは何でしょうか。
- 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神を愛することと自分を愛するように人を愛することがいちばん大切な戒めであるのはなぜだと思いますか。
- これらの二つの戒めはお互いにどのように関連し合っていますか。

自分の『マスター教義に関する基本文書』にある以下の教義に印を付けるよう、生徒に勧めます：**わたしたちはほかの人々を愛し、仕えることにより神を愛し、神に仕えることができます。**

- この教義の根拠となるマスター教義聖句はどれでしょうか。(モーサヤ2:17とモロナイ7:45, 47-48。)

マスター教義聖句のモーサヤ2:17に、目立つ印を付けて、見つけやすくするよう生徒に勧めます。)この聖句には、ベニヤミン王がその民のために行った奉仕について語ったときの言葉が含まれていることを説明します。

一人の生徒に、モーサヤ 2:17 を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、わたしたちはほかの人々を愛し、仕えることにより神を愛し、神に仕えることができると教えている語句を見つけるように言います。見つけたことを発表するように生徒に言います。

- わたしたちは人々に仕えるときに、どのような点で神に仕えていると思いますか。
- ほかの人に仕えているときに、神に仕えていると感じたのはどのようなときですか。ほかの人に仕えているときに、神にも仕えていることを証します。

セグメント 7 (15 分)

以下の教義をホワイトボードに書きます：わたしたちは他の人々を愛し、仕えることにより神を愛し、神に仕えることができます。

マスター教義のモーサヤ 2:17 とモロナイ 7:45, 47 – 48 の両方がこの教義の根拠となることを伝えます。

(モロナイ 7:45, 47 – 48 に、目立つ印を付けて、見つけやすくするよう生徒に勧めます。) モロナイ第 7 章で、モロナイは自分の父親であるモルモンが信仰、希望、慈愛について語った言葉を記録したということを説明します。

一人の生徒にモロナイ 7:47 を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、モルモンが語った慈愛の定義を見つけてもらいます。

- この聖句によれば、慈愛とは何でしょうか。(キリストの純粋な愛。)

慈愛についてモルモンが語った言葉は、救い主のようにほかの人々を愛し、仕えることにより神を愛し、神に仕える方法を知るうえで役立つことを説明します。

一人の生徒にモロナイ 7:45 を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、慈愛に満たされると、人はどのような特質を身に付けることができるか、その特質を探すように言います。自分が特に身に付けたい特質に印を付けるように生徒に勧めます。

- 45 節に挙げられている特質の中で、どの特質を特に身に付けたいでしょうか。それはなぜでしょうか。

一人の生徒にモロナイ 7:48 を声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、日の栄えの王国に入るためにわたしたちがしなければならない事柄を見つけてもらいます。

- モロナイ 7:48 によれば、慈愛で満たされるためにわたしたちは何をしなければなりませんか。
- 熱意を込めて祈り、イエス・キリストに真に従う者となる努力をすることは、主の愛に満たされるうえでどのように役立つでしょうか。
- モロナイ 7:45, 47 – 48 が、ほかの人々を愛し、仕えることにより神を愛し、神に仕えることができるといふ教義を理解するのに役立つ良いメッセージであるのはなぜだと思いますか。

ほかの人に対する慈愛を身に付けることの大切さについて証を分かち合うとよいでしょう。ほかの人と交わるときに、キリストの純粋な愛に満たされるという祝福を受けた経験を分かち合うとよいでしょう。

生徒にモロナイ 7:45 を復習し、ほかの人々に対する慈愛を深めるための具体的な方法をクラスノートか聖文学習帳に書いてもらいます。

セグメント 8 (5 分)

数人の生徒に、『マスター教義に関する基本文書』から教義のテーマ 9「戒め」の項の第 3 段落から第 5 段落を順番に声に出して読んでもらいます。ほかの生徒には、聖句を目で追いながら、これらの段落で述べられていて、自分たちが特に感謝している戒めを見つけるように言います。

- これらの段落で述べられていて、あなたが特に感謝している戒めは何ですか。(生徒がこの質問に答えるとき、その戒めに感謝していると言ったのはなぜなのか説明してもらいます。)

戒めについての証を分かち合い、その戒めに感謝しているのはなぜなのか分かち合います。

実践練習 (40 – 50 分)

このセクションにある練習は、あなたのスケジュールや生徒たちの必要に応じて、一度に、あるいは何回かに分けて行うことができます。

練習 1 (20 – 25 分)

以下の文をホワイトボードに書きます：わたしは、戒めを破っていながらも、すばらしい人生を送っているように見える大勢の人を知っています。幸福になるために戒めを守る必要がほんとうにあるのでしょうか。

生徒に、友人からこの質問をされたと想像してもらいます。生徒に、自分だったらどのように答えるか、考えるように言います。その際に、教義のテーマ 9「戒め」と『マスター教義に関する基本文書』の「霊的な知識を得る」の項にある以下の 3 つの原則の研究を通して学んだことを活用してもらいます：信仰をもって行動する、永遠の視点から概念や疑問について調べる、神が定められた情報源を通してさらに理解を深める。



この質問にどう答えればよいか生徒が理解するための助けとして、各生徒に以下の配付資料を渡します。以下の質問に対する答えを配付資料に書いてもらいます。



1. あなたは友人が信仰をもって行動するよう、どのように励ますことができるでしょうか。
2. 友人が自分の疑問について永遠の観点から調べることができるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。以下はその例です：
 - 友人が一時的な喜びと永続する幸福の違いについて考えることができるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。
 - 戒めに対する従順がどのようにして永続する幸福をもたらすか、また不従順がどのようにして不幸をもたらすか、友人が理解できるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。
 - 『マスター教義に関する基本文書』にある教義のテーマ 9「戒め」からどの教義、または真理を友人と分かち合いたいでしょうか。それはなぜでしょうか。
3. どの聖文または神が定められたリソースを友人と分かち合おうと思えますか。それはなぜでしょうか。



十分に時間を取ってから、生徒を二人一組にし、この質問をした友人と交わすと思われるやり取りをロールプレイしてもらいます。ロールプレイを行うための助けとして、配付資料に書かれた質問の答えを活用してもらいます。数分たったら、生徒に役割を交代し、もう一度ロールプレイをしてもらいます。

ロールプレイが終わったら、生徒に、質問をするか、この実践演習を行ったときに頭に浮かんだ考えまたは洞察を分かち合ってもらいます。

一人または複数の生徒に、戒めに対する従順が主から幸福と祝福をもたらした経緯について証を分かち合ってもらいます。

練習 2 (20 – 25 分)

次のシナリオを声に出して読みます：

学校で何人かのクラスメートと話しているとき、一人のクラスメートがあなたの宗教上の信念を批判したとします。あなたが受け答えをしようとする、その人はあまり耳を貸すことなく、さらに批判します。あなたは批判されて傷つき、怒りを覚え、思いやりのない言葉で言い返します。後で、そのことを後悔し、今後は自分の宗教上の信念を隠すよう努めるべきではないかと考え始めます。



クラスを二人か三人のグループに分け、各生徒に次の配付資料を配ります。先に述べたような状況で、「霊的な知識を得る」の3つの原則を応用する方法について検討するうえでこの配付資料が役立つことを説明します。生徒にグループで協力してこの活動を行うように言います。



どうすれば自分の信じる福音の真理に確固として立ち、自分とは異なる信念を持つ人々に対して愛を示すことができるでしょうか。

以下に挙げられた原則や質問を使って、上記の質問にどう答えるか、話し合ってください。

信仰をもって行動する：

- 上記の質問に答えるとしたら、どうすれば信仰をもって行動することができるでしょうか。

永遠の視点から概念や疑問について調べる：

- 意見の異なる人、あるいは愛するのが難しい人と付き合うときに、どうすれば永遠の視点を持つことができるでしょうか。なぜこれを行うことが大切だと思いますか。

神が定められた情報源を通してさらに理解を深める：

- モロナイ 7：45, 47 – 48で教えられている教義は、この質問に答える方法を知るうえでどのように役立つでしょうか。
- ほかのどのような聖文や預言者または教会指導者の教えが、この質問に対する答えを見つけるのに役立つでしょうか。

生徒が、配付資料にある質問に答えるのに役立つ神が定められたほかの情報源を見つけるうえで助けを必要としている場合、ダリン・H・オークス長老による2014年10月の大会説教「違いがあっても周りの人を愛し、受け入れる」(『リアホナ』2014年11月号、25 – 28)を紹介するとよいでしょう。

生徒がこの活動を終えるのに時間を十分取ってから、数人の生徒に、話し合ったことを発表してもらいます。

一人の生徒に、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉を声に出して読んでもらいます。



「友の皆さん、特に若い友の皆さん、元気を出してください。ほんとうの義から流れ出る、キリストのように純粋な愛には、世界を変える力があります。……

強くあってください。周りの人がまったくそうでなくとも、福音に忠実に従ってください。自分の信仰を擁護してください。良識と思いやりをもって、信仰を擁護してください。」(ジェフリー・R・ホルランド長老「弟子として歩むことに伴う犠牲と祝福」『リアホナ』2014年5月号, 8-9)

自分の信仰を擁護するときも周囲の人々を愛することの大切さについて証します。この練習で学んだことを使って自分の信じる福音の真理を愛にあふれる、キリストのような方法で擁護する方法について、生徒によく考えてもらいます。

マスター教義の復習

この復習活動は、生徒がモルモン書のマスター教義聖句の根拠となる教義を理解し、応用するのに役立ちます。この復習活動は、生徒がモルモン書のマスター教義聖句をすべて学んだ後、学習コースの終わりごろに使うとよいでしょう。

十二使徒定員会会長であるボイド・K・パッカー会長(1924-2015年)が語った次の言葉を示します。一人の生徒に、次の文を声に出して読んでもらいます。



「真実の教義を理解するならば、態度と行動が変わります。福音の教義を研究することは、人の行動を研究することよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。」(ボイド・K・パッカー、「幼き子ら」『聖徒の道』1987年1月号, 18-19)

マスター教義聖句にはそれぞれ、理解すれば、キリストや天の御父のようになるのに役立つことの教義が含まれていることを説明します。次の質問をホワイトボードに書くか、配付資料として生徒に渡します。

- この聖文には、理解すれば、人の態度や行いを変えるどのような教義が含まれているでしょうか。
- この聖文が根拠となっている教義をよく理解すれば、人の態度や行動にどのような影響を及ぼすでしょうか。
- この教義を理解することでそのような影響があるのはなぜだと思いますか。
- この教義を理解した結果、あなたの態度や行動はどのように変わりましたか。

クラスの生徒一人一人にモルモン書からマスター教義聖句を選ぶように言います。あるいは何枚かの紙に参照聖句を書き、生徒にそのうちから一枚を選ぶように言ってもよいでしょう。生徒にマスター教義聖句を読み、上記の4つの質問に対する答えを発表する準備をしてもらいます。

十分な時間を取ってから、生徒を二人一組にし、聖句を互いに読み合い、それから質問に答えるように言います。数人の生徒に答えを発表してもらいます。

モルモン書のマスター教義聖句で教えられている教義には、わたしたちが時間を割いて、それらの教義を研究し、真に理解するならば、わたしたちの行動に大きな影響を及ぼす力があることを証します。生徒にこの活動で復習した教義の一つをより効果的に応用するよう努力することを勧めます。

実践練習

1. あなたは友人が信仰をもって行動するよう、どのように励ますことができるでしょうか。
2. 友人が自分の疑問について永遠の観点から調べることができるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。以下はその例です：
 - 友人が一時的な喜びと永続する幸福の違いについて考えることができるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。
 - 戒めに対する従順がどのようにして永続する幸福をもたらすか、また不従順がどのようにして不幸をもたらすか、友人が理解できるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。
 - 『マスター教義に関する基本文書』にある教義のテーマ9「戒め」からどの教義、または真理を友人と分かち合いたいでしょうか。それはなぜでしょうか。
3. どの聖文または神が定められたリソースを友人と分かち合おうと思いますか。それはなぜでしょうか。

実践練習

1. あなたは友人が信仰をもって行動するよう、どのように励ますことができるでしょうか。
2. 友人が自分の疑問について永遠の観点から調べることができるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。以下はその例です：
 - 友人が一時的な喜びと永続する幸福の違いについて考えることができるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。
 - 戒めに対する従順がどのようにして永続する幸福をもたらすか、また不従順がどのようにして不幸をもたらすか、友人が理解できるように、あなたはどのように助けることができるでしょうか。
 - 『マスター教義に関する基本文書』にある教義のテーマ9「戒め」からどの教義、または真理を友人と分かち合いたいでしょうか。それはなぜでしょうか。
3. どの聖文または神が定められたリソースを友人と分かち合おうと思いますか。それはなぜでしょうか。



実践練習

どうすれば自分の信じる福音の真理に確固として立ち、自分とは異なる信念を持つ人々に対して愛を示すことができるでしょうか。

以下に挙げられた原則や質問を使って、上記の質問にどう答えるか、話し合ってください。

信仰をもって行動する：

- 上記の質問に答えるうえで、信仰をもって行動するとは、どのようなことでしょうか。

永遠の視点から概念や疑問について調べる：

- 意見の異なる人、あるいは愛するのが難しい人と付き合うときに、どうすれば永遠の視点を持つことができるでしょうか。なぜこれを行うことが大切だと思いますか。

神が定められた情報源を通してさらに理解を深める：

- モロナイ 7：45、47 – 48で教えられている教義は、この質問に答える方法を知るうえでどのように役立つでしょうか。
- ほかのどのような聖文や預言者または教会指導者の教えが、この質問に対する答えを見つけるのに役立つでしょうか。



付録一モルモン書 マスター教義推奨 学習進度ガイド

「教師への指示」に掲載されている学習進度ガイドは、マスター教義を小さなセグメントに分けて、毎週、複数の日をかけて教えたい教師向けです。

以下の進度ガイドは、授業時間をすべて使ってそれぞれのマスター教義レッスンを教えたい教師向けです。これを達成するには、特定の日に、聖典に基づいたレッスン二つ分を一つのレッスンにまとめるよう進度ガイドは勧めています。これにより、合計160日のレッスン日数を保ったまま、モルモン書マスター教義レッスンを組み込むことができます。この手法を選択した場合、二つのレッスンを一つにまとめるために、どちらのレッスンをしっかりと教え、どちらを要約して教えるかを決定する必要があります。

毎週一回マスター教義レッスンを行う場合の推奨学習進度ガイド		
週	レッスン	聖句ブロック
1	第1日—第1課 タイトルページ、序文、三人と八人の証人の証 第2日—第2課 聖文を研究する 第3日—第3課 学習者の役割 第4日—第4課 救いの計画 第5日—第5課 モルモン書の概要	タイトルページ、序文、三人と八人の証人の証
2	第1日—霊的な知識を得る（第一部） 第2日—霊的な知識を得る（第二部 — 「疑問の答えを見いだすための原則」、「信仰をもって行動する」、「永遠の観点から概念や疑問について調べる」、「神が定められた情報源を通してさらに理解を深める」） 第3日—第6課 1 ニーファイ 1 章 第4日—第7課 1 ニーファイ 2 章 第5日—第8課 1 ニーファイ 3—4 章	1 ニーファイ 1—4 章
3	第1日—フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第2日—第9課 1 ニーファイ 5 章； 第10課 1 ニーファイ 6；9 章 第3日—第11課 1 ニーファイ 7 章 第4日—第12課 1 ニーファイ 8 章 第5日—第13課 1 ニーファイ 10—11 章	1 ニーファイ 5—11 章

毎週一回マスター教義レッスンを行う場合の推奨学習進度ガイド		
週	レッスン	聖句ブロック
4	第1日—第14課 1ニーファイ12–13章 第2日—フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第3日—霊的な知識を得る（第2部—「マスター教義の復習」〔20分〕およびフレックスタイム） 第4日—第15課 1ニーファイ14章 第5日—第16課 1ニーファイ15章	1ニーファイ12–15章
5	第1日—第17課 1ニーファイ16章 第2日—第18課 1ニーファイ17章; 第19課 1ニーファイ18章 第3日—第20課 1ニーファイ19章; 第21課 1ニーファイ20–22章 第4日—神会（セグメント1–4） 第5日—第22課 2ニーファイ1章	1ニーファイ16章–2ニーファイ1章
6	第1日—第23課 2ニーファイ2章（第一部） 第2日—第24課 2ニーファイ2章（第二部） 第3日—第25課 2ニーファイ3章 第4日—フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第5日—神会（セグメント5–8）	2ニーファイ2–3章
7	第1日—第26課 2ニーファイ4章 第2日—第27課 2ニーファイ5章; 第28課 2ニーファイ6–8章 第3日—第29課 2ニーファイ9:1–26 第4日—第30課 2ニーファイ9:27–54; 10章 第5日—第31課 2ニーファイ11;16章	2ニーファイ4–11, 16章
8	第1日—神会（「実践練習」および「マスター教義の復習」） 第2日—フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第3日—第32課 2ニーファイ12–15章 第4日—第33課 2ニーファイ17–20章; 第34課 2ニーファイ21–24章 第5日—第35課 2ニーファイ25章	2ニーファイ12–15章, 17–25章

毎週一回マスター教義レッスンを行う場合の推奨学習進度ガイド		
週	レッスン	聖句ブロック
9	第1日ー第36課 2ニーファイ26章 第2日ー第37課 2ニーファイ27章 第3日ー救いの計画 (セグメント1ー5) 第4日ー第38課 2ニーファイ28章; 第39課 2ニーファイ29ー30章 第5日ーフレックスデー (フレックスデーのための提案参照)	2ニーファイ 26ー30章
10	第1日ー第40課 2ニーファイ31章 第2日ー第41課 2ニーファイ32章 第3日ー第42課 2ニーファイ33章 第4日ー救いの計画 (「実践練習」および「マスター教義の復習」) 第5日ー第43課 ヤコブ1:1ー2:11	2ニーファイ31 章ーヤコブ2: 11
11	第1日ー第44課 ヤコブ2:12ー35 第2日ー第45課 ヤコブ3ー4章 第3日ー第46課 ヤコブ5:1ー51 第4日ー第47課 ヤコブ5:52ー77;6章 第5日ー第48課 ヤコブ7章	ヤコブ2:12 ー7:27
12	第1日ーイエス・キリストの贖罪 (セグメント1ー4) 第2日ーフレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第3日ー第49課 エノス 第4日ー第50課 ジェロムとオムナイ 第5日ー第51課 モルモンの言葉ーモーサヤ1章	エノスーモーサヤ 1章
13	第1日ー第52課 モーサヤ2章 第2日ー第53課 モーサヤ3章 第3日ーイエス・キリストの贖罪 (セグメント5ー9) 第4日ー第54課 モーサヤ4章 第5日ー第55課 モーサヤ5ー6章	モーサヤ2章 ー6章
14	第1日ー第56課 モーサヤ7ー8章 第2日ー第57課 モーサヤ9ー10章; 第58課 モーサヤ11:1ー12:17 第3日ーフレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第4日ー第59課 モーサヤ12:18ー14:12 第5日ー第60課 モーサヤ15ー17章	モーサヤ7 ー17章

毎週一回マスター教義レッスンを行う場合の推奨学習進度ガイド		
週	レッスン	聖句ブロック
15	第1日ーイエス・キリストの贖罪（セグメント10－12章および「実践練習1」） 第2日ー第61課 モーサヤ18章 第3日ー第62課 モーサヤ19－20章 第4日ー第63課 モーサヤ21－22章 第5日ー第64課 モーサヤ23－24章; 第65課 モーサヤ25章	モーサヤ18章－25章
16	第1日ー第66課 モーサヤ26章 第2日ー第67課 モーサヤ27章; 第68課 モーサヤ28－29章 第3日ーフレックスデー（1ニーファイ1章－アルマ16章の理解度調査を実施するために推奨されている授業） 第4日ーフレックスデー（1ニーファイ1章－アルマ16章の理解度調査を復習するために推奨されている授業） 第5日ー第69課 アルマ1－2章; 第70課 アルマ3－4章	モーサヤ26章－アルマ4章
17	第1日ー第71課 アルマ5:1－36 第2日ーイエス・キリストの贖罪（「実践練習2」および「マスター教義の復習」） 第3日ー第72課 アルマ5:37－62 第4日ー第73課 アルマ6－7章 第5日ー第74課 アルマ8章; 第75課 アルマ9－10章	アルマ5－10章
18	第1日ー第76課 アルマ11章; 第77課 アルマ12章 第2日ー第78課 アルマ13章 第3日ー第79課 アルマ14章 第4日ー第80課 アルマ15－16章 第5日ーフレックスデー（学期最終日）	アルマ11－16章
19	第1日ー第81課 アルマ17章 第2日ー第82課 アルマ18章 第3日ー第83課 アルマ19－20章 第4日ー第84課 アルマ21－22章 第5日ー第85課 アルマ23－24章	アルマ17－24章

毎週一回マスター教義レッスンを行う場合の推奨学習進度ガイド		
週	レッスン	聖句ブロック
20	第1日—第86課 アルマ25—26章 第2日—第87課 アルマ27—29章 第3日—回復（セグメント1—2および「マスター教義の復習」） 第4日—第88課 アルマ30章 第5日—フレックスデー（フレックスデーのための提案参照）	アルマ25—30章
21	第1日—第89課 アルマ31章 第2日—第90課 アルマ32章 第3日—第91課 アルマ33章 第4日—第92課 アルマ34—35章 第5日—第93課 アルマ36章	アルマ31—36章
22	第1日—第94課 アルマ37章 第2日—預言者と啓示（「教義を理解する」および「マスター教義の復習」）と神権と神権の鍵（セグメント1—2および「マスター教義の復習」） 第3日—第95課 アルマ38章 第4日—フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第5日—第96課 アルマ39章	アルマ37—39章
23	第1日—第97課 アルマ40章 第2日—第98課 アルマ41章 第3日—第99課 アルマ42章 第4日—儀式と聖約（セグメント1—4） 第5日—第100課 アルマ43—46章	アルマ40—46章
24	第1日—第101課 アルマ47—48章 第2日—第102課 アルマ49—51章 第3日—第103課 アルマ52—55章 第4日—第104課 アルマ56—58章 第5日—第105課 アルマ59—63章	アルマ47—63章
25	第1日—フレックスデー（フレックスデーのための提案参照） 第2日—儀式と聖約（「実践練習」および「マスター教義の復習」） 第3日—第106課 ヒラマン1—2章 第4日—第107課 ヒラマン3—4章 第5日—第108課 ヒラマン5章	ヒラマン1—5章

毎週一回マスター教義レッスンを行う場合の推奨学習進度ガイド		
週	レッスン	聖句ブロック
26	第1日—第109課 ヒラマン6-7章; 第110課 ヒラマン8-9章 第2日—第111課 ヒラマン10章 第3日—第112課 ヒラマン11-12章 第4日—第113課 ヒラマン13章 第5日—フレックスデー (フレックスデーのための提案参照)	ヒラマン6-13章
27	第1日—結婚と家族 (セグメント1-2) 第2日—第114課 ヒラマン14章 第3日—第115課 ヒラマン15-16章 第4日—第116課 3ニーファイ1章 第5日—第117課 3ニーファイ2-5章	ヒラマン14章-3ニーファイ5章
28	第1日—第118課 3ニーファイ6-7章; 第119課 3ニーファイ8-10章 第2日—結婚と家族 (「実践練習」および「マスター教義の復習」) 第3日—第120課 3ニーファイ11:1-17 第4日—第121課 3ニーファイ11:18-41 第5日—フレックスデー (フレックスデーのための提案参照)	3ニーファイ6-11章
29	第1日—第122課 3ニーファイ12章 第2日—第123課 3ニーファイ13章 第3日—第124課 3ニーファイ14章 第4日—第125課 3ニーファイ15-16章 第5日—第126課 3ニーファイ17章	3ニーファイ12-17章
30	第1日—戒め (セグメント1-4) 第2日—第127課 3ニーファイ18章; 第128課 3ニーファイ19章 第3日—第129課 3ニーファイ20章 第4日—フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第5日—第130課 3ニーファイ21-22章; 第131課 3ニーファイ23章	3ニーファイ18-23章
31	第1日—第132課 3ニーファイ24-26章 第2日—第133課 3ニーファイ27章 第3日—戒め (セグメント5-8) 第4日—第134課 3ニーファイ28章 第5日—第135課 3ニーファイ29-30章	3ニーファイ24-30章

毎週一回マスター教義レッスンをを行う場合の推奨学習進度ガイド		
週	レッスン	聖句ブロック
32	第1日—第136課 4 ニーフアイ 第2日—第137課 モルモン1—2章; 第138課 モルモン3—4章 第3日—第139課 モルモン5—6章; 第140課 モルモン7章 第4日—第141課 モルモン8章 第5日—第142課 モルモン9章	4 ニーフアイ—モルモン9章
33	第1日—フレックスデー (フレックスデーのための提案参照) 第2日—第143課 エテル1章; 第144課 エテル2章 第3日—戒め (「実践練習」1—2) 第4日—第145課 エテル3章 第5日—第146課 エテル4—5章; 第147課 エテル6章	エテル1—6章
34	第1日—第148課 エテル7—11章 第2日—フレックスデー (アルマ17章—モロナイ10章の理解度調査を実施するために推奨されている授業) 第3日—フレックスデー (アルマ17章—モロナイ10章の理解度調査を復習するために推奨されている授業) 第4日—第149課 エテル12:1—22 第5日—第150課 エテル12:23—41	エテル7—12章
35	第1日—第151課 エテル13—15章 第2日—第152課 モロナイ1—3章; 第153課 モロナイ4—5章 第3日—戒め (「マスター教義の復習」〔20分〕およびフレックスタイム) 第4日—第154課 モロナイ6章 第5日—第155課 モロナイ7:1—19	エテル13:1—モロナイ7:19
36	第1日—第156課 モロナイ7:20—48 第2日—第157課 モロナイ8章; 第158課 モロナイ9章 第3日—第159課 モロナイ10:1—7, 27—29 第4日—第160課 モロナイ10:8—26, 30—34 第5日—フレックスデー (学期最終日)	モロナイ7:20—10:34



宗教教育
セミナー・インスティテュート

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

